

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年12月20日
【事業年度】	第13期（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社オークファン
【英訳名】	Aucfan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 武永 修一
【本店の所在の場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	(03) 6809 - 0951
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理部長 山田 圭祐
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	(03) 6809 - 0951
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理部長 山田 圭祐
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月
売上高 (千円)	1,449,513	2,725,527	3,656,420	5,863,720	6,636,469
経常利益 (千円)	142,533	332,153	302,824	423,540	672,114
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	182,192	308,842	218,980	223,913	327,178
包括利益 (千円)	172,495	261,586	230,556	221,637	304,570
純資産額 (千円)	2,142,830	2,279,629	2,506,011	2,717,158	3,222,038
総資産額 (千円)	4,269,983	4,465,070	4,216,731	5,873,838	5,515,508
1株当たり純資産額 (円)	213.53	229.69	250.82	274.22	312.95
1株当たり当期純利益 (円)	18.61	31.48	22.25	22.72	32.54
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	18.37	30.26	21.20	22.14	31.22
自己資本比率 (%)	49.0	50.6	58.6	46.0	58.2
自己資本利益率 (%)	8.7	14.2	9.3	8.7	11.1
株価収益率 (倍)	32.46	47.68	38.29	35.56	24.31
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	135,597	765,660	155,290	468,010	6,669
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,721,829	248,771	125,560	222,345	322,253
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,843,677	503,453	430,739	818,285	411,003
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,402,568	1,424,936	1,028,960	2,094,725	1,354,496
従業員数 (人)	89	105	120	172	149
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(19)	(32)	(30)	(24)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 2015年9月期より連結財務諸表を作成しているため、第9期の自己資本利益率は、期末自己資本に基づいて計算しております。

3. 第9期の平均臨時雇用者数は従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月
売上高 (千円)	1,269,366	1,419,391	1,699,643	2,198,969	3,208,091
経常利益 (千円)	230,834	220,124	190,375	358,671	624,825
当期純利益又は当期純損失 (千円)	107,363	286,642	279,023	275,496	90,089
資本金 (千円)	670,948	676,452	678,414	679,591	861,157
発行済株式総数 (株)	9,860,000	9,895,000	9,907,500	9,915,000	10,469,400
純資産額 (千円)	2,032,553	2,292,667	2,596,326	2,867,721	2,953,233
総資産額 (千円)	3,985,082	3,955,473	3,967,197	5,237,967	4,791,910
1株当たり純資産額 (円)	205.89	231.02	261.31	289.93	287.35
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は当期純損失 (円)	10.97	29.22	28.35	27.95	8.96
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	10.83	28.08	26.94	27.24	-
自己資本比率 (%)	50.7	57.5	64.9	54.6	61.5
自己資本利益率 (%)	5.5	13.4	11.5	10.1	3.1
株価収益率 (倍)	55.06	51.37	30.05	28.91	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (人)	70	67	69	65	93
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(9)	(10)	(9)	(-)
株主総利回り (%)	43.1	107.2	60.9	57.7	56.5
(比較指標: TOPIX)	(106.4)	(99.7)	(126.3)	(137.0)	(119.7)
最高株価 (円)	1,490	1,565	1,572	949	1,780
最低株価 (円)	596	521	779	672	643

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益、株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー及びインターンのみ、人材会社からの派遣社員は除く。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。なお、第9期及び第13期の臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

## 2【沿革】

当社代表取締役社長である武永修一は、大学時代から個人事業主としてインターネットオークション（以下、「オークション」といいます。）による商品の出品販売を行っておりましたが、売上高の拡大を機に、2004年4月、当社の前身となる株式会社デファクトスタンダード（以下、「同社」といいます。）を設立いたしました。同社では、オークション事業（オークションによる商品の出品販売）を主に行っておりましたが、2006年1月に、個人からオークション統計サイト（現「aucfan.com（オークファンドットコム）」）の営業を譲り受け、メディア事業としてオークションの価格比較・相場検索サイトの運営を開始いたしました。当社は、2007年6月に同社のメディア事業を新設分割することによって設立されております。

当社設立以降の主な沿革は以下のとおりであります。

年月	事項
2007年6月	インターネットメディア「オークファン」の運営を事業目的として、株式会社デファクトスタンダードよりメディア事業を新設分割し、東京都港区芝に株式会社オークファンを設立、純広告サービス及びネット広告サービスを開始
2007年7月	本社を東京都渋谷区恵比寿一丁目21番8号に移転
2007年8月	無料会員サービスを開始
2008年4月	本社を東京都渋谷区広尾一丁目3番14号に移転
2008年5月	有料会員サービス「オークファンプレミアム」を開始
2008年12月	オークション専門通信講座「オークファンスクール」を開始
2009年5月	消費動向分析ツール「オークデータ」を開始
2010年1月	オークション通信講座「オークファンゼミ」を開始
2010年7月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目21番14号に移転
2010年8月	スマートフォン向けサイト「aucfan Touch（オークファンタッチ）」の提供を開始
2011年9月	一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）より、「プライバシーマーク」を取得
2011年10月	スマートフォン向けアプリ「モノちえき」の提供を開始
2011年11月	総合分析ツール「オークファンプロ」を開始
2012年12月	世界のECサイトの一括検索サービス「グローバルオークファン」を開始
2013年3月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号に移転
2013年4月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2013年10月	国内最大級のフリーマーケット事業「楽市楽座」を株式会社マーケットエンタープライズより取得
2014年2月	ヤフー株式会社と連携し「ヤフオク!」出品者育成サービス『オークション出品塾・大学』を開始
2014年5月	ネットオークションでの取引商品を検知・監視する『オークチェッカー（ ）』を開始
2014年10月	グランドデザイン&カンパニー株式会社の株式を100%取得
2014年11月	グランドデザイン&カンパニー株式会社の「オムニチャネル・プラットフォーム事業」を新設会社のグランドデザイン株式会社に承継
2015年1月	株式会社マイニングブラウニーの株式を100%取得 スマートフォン版オークファン「aucfan Touch」iOS版au公式コンテンツとして提供開始
2015年2月	価格分析ツールの「オークファンプロ」がリニューアル ネット物販ユーザー向け新サービス「最新仕入れ速報」をリリース
2015年4月	グランドデザイン&カンパニー株式会社を吸収合併 オークファンサービス『らくらく卸』と仕入れ・卸売サイト『CtoJ』が連携 医療情報のプラットフォーム提供を行うMRT株式会社とデータ連携 aucfan.comのスマートフォンサイトを全面リニューアル

年月	事項
2015年 6月	子会社の株式会社グランドデザインがショッピングモールスマホアプリ「Gotcha!mall」のASEAN展開でトランス・コスモス株式会社と資本・業務提携
2015年 7月	株式会社ディー・エヌ・エーが運営するBtoBマーケットプレイス「DeNA BtoB market」を承継した新設会社である株式会社NETSEAの株式を100%取得
2015年 9月	「パソコンスクールアビバ」で「ヤフオク！」対策講座を開設 ダメージカー買取シェアNO.1の株式会社タウと相場検索サイト「オークファン」がデータ連携開始
2016年 1月	株式会社リバリュの株式を100%取得
2016年 2月	オークファンプレミアム会員の機能拡張と価格改定 新会員サービス「オークファンライト会員」リリース 「オークション入札予約」をYahoo!プレミアム会員特典として提供開始
2016年 4月	株式会社スマートソーシングの株式を65%取得
2016年 6月	スマートフォンアプリリリース（iOS版、Android版）
2016年 7月	「リユースマスター® 資格認定制度」創設に協力 技術とノウハウを駆使ししたEC解析ツール『Storoid（ストロイド）』をリリース
2016年 9月	株式会社NETSEAと株式会社リバリュが合併し、株式会社SynaBizとして発足 株式会社マイニングブラウニーを吸収合併
2017年 2月	「Yahoo!官公庁オークション」への出品担当者向けサービスをリリース スマートフォンアプリ「オークファン」月額課金サービスを提供開始
2017年 3月	aucfan.com価格相場検索に「フリマモード」（新機能）を追加
2017年 7月	ワケあり品限定販売サイト「WAKEARY（ワケアリー）」提供開始 社会貢献型サンプリングサービス「Otameshi」提供開始
2017年11月	「お買い得品 EC」の株式会社ネットプライス株式を100%取得
2017年12月	本社を東京都品川区上大崎二丁目13番30号に移転
2018年 3月	システム開発会社 株式会社ゼロディブの株式を100%取得
2019年 4月	社会貢献型ショッピングサイト「junijuni sponsored by TOKYO GAS」を開設
2019年 7月	Amazon セラーを支援する出品ツール「ARPAcart（アルパカート）」をリリース

### 3【事業の内容】

#### (1) 事業の概要

当社グループは、当社と連結子会社3社で構成されております。当社は、「あらゆる人が、あらゆる場所で、あらゆるモノを売り買いできる新たな時代を創る」ことをミッションに掲げ、「グローバルな循環型消費社会の先駆者であり続ける」というビジョンのもとに、唯一無二の『データ×流通プラットフォーム』のサービスを展開しております。

日本だけでも年間約22兆円規模の商品が消費者に届けられることなく、企業の倉庫や小売店で廃棄されています( )。「予想していたよりも冷夏だった」、「競合製品に顧客を奪われてしまった」、「パッケージ変更により旧商品を売れなくなってしまった」など、廃棄に至る理由は様々ですが、商品自体にはなんの不備もなく、まだまだ使えるものが捨てられてしまっている現状があります。当社グループは、創業来の基幹事業であるネットオークション・ショッピングの比較検索サイト『aucfan.com(オークファンドットコム)』をはじめとした「商品相場」に関する情報提供(インターネットメディア)事業を核としつつ、卸・メーカーを対象としたマーケットプレイスの運営やインターネット上での販売活動支援等を行うソリューション事業を通して、この22兆円の巨大市場に取り組んでおります。( 法人企業統計等を基に当社推計)

この巨大市場に取り組むための当社グループの強みは、680億件を超える「商品売買の実売価格」に基づく多面的なデータ解析機能と、それらデータの閲覧・活用等を目的とした100万人を超える多様なユーザー層にあります。特に、商品価格の解析データについては、国内外のショッピングサイト及びオークションサイトの運営者(以下、総称して「ECサイト」といいます。)から取得した過去の商品情報及び価格情報を基に統計的な分析を行うところに付加価値があると考えております。これらのデータ解析を利用することで、従来個々人の主観や経験則に依存していた売買価格の決定をより科学的な手法で解決することができ、あらゆるユーザーの商品売買にとってかけがえのないサービスとなることを目指しています。また、当社グループのユーザーは、企業として商品売買を行う法人ユーザーだけでなく、個人事業主として副業の一環で売買を行うユーザー、また身の回りの不用品を販売する個人ユーザーまで、「Small B」といわれる個人ユーザーによって構成されております。当社グループは、国内外でも最大級の「Small B支援企業」を自負しており、100万人以上の「Small B」ユーザーが、国境を超えた商品売買の支援を行っています。

これらの強みを活用し、当社グループでは「メディア」、「マーケットプレイス」、「ソリューション」及び「インキュベーション事業」の大きく4つの区分で売上及び営業利益の計上を行っております。

##### a. メディア

「メディア事業」は、当社が運営する『aucfan.com』からの有料課金収入及び『オークファンスクール』が主たる収入源となっております。各ECサイトから取得した商品情報及び価格情報を整理統合し、分析・解析をすることによって、とりわけ商品の売り手(以下、「販売者」といいます。)にとって有益な情報を提供しております。各ECサイトの商品情報及び価格情報を比較・検索・分析等ができる他、過去に各ECサイトで実際に取引された商品情報及び価格情報を閲覧することができ、商品売買の参考指標とすることができます。一言で言えば、各商品・サービスの相場観の醸成に寄与する諸データの提供ということになります。

具体的には『オークファン』を訪れるすべてのユーザーに対しては、商品名や特徴となるキーワードから該当する商品情報及び価格情報の比較・検索・分析等のサービスを提供しております。また、会員登録を済ませた無料会員に対しては、『オークファン』内に開設した「マイページ」にて、気に入った商品情報及び価格情報を保存する機能や有料会員向けの機能の一部を制限付で提供しております。さらに、商品を売買する時に、より利便性の高い情報や機能を求めるユーザーに対しては、有料サービスも提供しております。

なお、『オークファン』における対象者別の主要な機能の概要は以下のとおりです。

『オークファン』の主要機能一覧

対象者	サービス名称及び機能	月額利用料 (税込)	機能の概要
すべてのユーザー	「商品情報及び価格情報検索」	無料	商品名や特徴となるキーワードから該当する商品情報及び価格情報に関して、ECサイトを横断的に比較・検索ができます。
一般会員 (無料会員)	「マイページ」	無料	『オークファン』内に「マイページ」を開設することにより、気に入った商品情報及び価格情報を保存する機能や有料会員の機能の一部(出品テンプレートの保存、入札予約など)を制限付で利用できます。
有料会員	「オークファン ライト」	330円	『オークファン』サイトにおける広告コンテンツの非表示、過去10年間分の落札相場検索、入札予約ツールなどのサービスを利用できます。
	「オークファン プレミアム」	998円	有料会員の基本サービスであり、過去10年間の落札データ検索や出品者向け機能の利用が可能になる他、落札相場検索の高速化、出品テンプレートの保存、入札予約等のサービスが利用できます。
	「オークファンプロPlus」	11,000円	オークション出品者向けの相場検索機能及びデータ分析機能等の利用が可能になります。
	「ARPAcart(アルパカート)」	4,980円	Amazon大口出品者がAmazon Seller Centralと連携することで、「出品」「価格改定」「売上集計」の作業時間が短縮され、商品回転率の向上及び売上の拡大も見込めます。
	「オークファンスクール」	(数万円～ 数十万円) 一括	主に副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象として、物販ビジネスに精通した講師が直接及び遠隔でサポートするスクール形式のサービスを受けることができます。

当社は、商品情報及び価格情報についてはサイト開設から2019年9月末時点で、約680億件を超えるデータを蓄積しており、一般会員(無料会員)数は870,646人、有料会員数は43,823人に至っております。また直近5年間の一般会員数(無料会員数)、有料会員数及び有料会員1人あたりの平均月額課金額の年次推移は以下のとおりとなります。

『オークファン』の一般会員数(無料会員数)、有料会員数、有料会員1人あたりの平均月額課金額の推移

年月	2015年9月期末	2016年9月期末	2017年9月期末	2018年9月期末	2019年9月期末
一般会員数 (無料会員数)	578,834人	669,331人	771,056人	818,955人	870,646人
有料会員数	74,401人	63,349人	56,107人	48,887人	43,823人
有料会員1人あたりの平均月額課金額	770円/月	1,321円/月	1,382円/月	2,782円/月	2,983円/月

#### b. マーケットプレイス

「マーケットプレイス事業」は、当社連結子会社である株式会社SynaBizが運営するBtoB卸モール『NETSEA』及び滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援を行うリバリュース事業を主たる事業として、有料課金収入、流通手数料及び商品販売収入を収益源としております。また『NETSEA』及びリバリュース事業は、商品流通拡大に課題を持つメーカー・卸を対象としたサービスとして、ネット上での販売拡大・在庫処分などの企業ニーズに応えるユニークな商品売買の場を提供しております。

より具体的には『NETSEA』においては、在庫を抱える大手メーカー・卸（以下、「サプライヤー」といいます。）と幅広い商品の仕入れニーズを持つ中小規模の小売店・卸（以下、「バイヤー」といいます。）をマッチングさせ、既存流通網ではアプローチできなかった新たな販路の提供を行っております。主な収益モデルは、流通金額の8～10%程度の流通手数料及び、本格的に販売強化を行うサプライヤーを対象とした有料課金メニューの提供であります。

また、リバリュース事業においては、滞留在庫・返品・型落ち品等、サプライヤーの持つ在庫流動化ソリューションを提供しております。インターネット上でのクローズドなオークションサイト『リバリュースBtoBモール』、自社流通網、海外販売パートナー等、様々な販路を提供し、多様なサプライヤーニーズに応えられるサービスを提供しております。主な収益モデルは、一部在庫化商品の販売及び流通手数料であります。

また、BtoCモールでは、株式会社SynaBizが運営する社会貢献型サンプリングサービス『Otameshi（オタメシ）』事業、株式会社ネットプライスによるお買い得品EC事業『ネットプライス』の運営も行っております。

直近3年間の『NETSEA』及びリバリュース事業の流通額は以下のとおりとなります。

『NETSEA』及びリバリュース事業の流通額の推移

（単位：百万円）

年月	2017年9月期末	2018年9月期末	2019年9月期末
NETSEA	6,605	6,352	6,546
リバリュース事業 （中古車販売事業も含む）	1,076	1,170	1,068

#### c. ソリューション

「ソリューション事業」は、当社連結子会社である株式会社スマートソーシングを主体として、販売活動支援サービス・マーケティング支援サービスを主として提供しております。販売活動支援サービスでは、複数のECサイトへの同時出品・在庫連動等が可能なASPサービス『タテンボガイドNEXT』の提供による有料課金収入及びシステムのカスタマイズ導入による対価等を収益として得ております。また、マーケティング支援サービスでは、当社にて取得・分析した商品相場情報に統計学的補正を施したものを分析レポート等の形式で顧客に対して販売する等、当社の保有する商品情報及び価格情報データの提供を主としたサービスを展開しております。

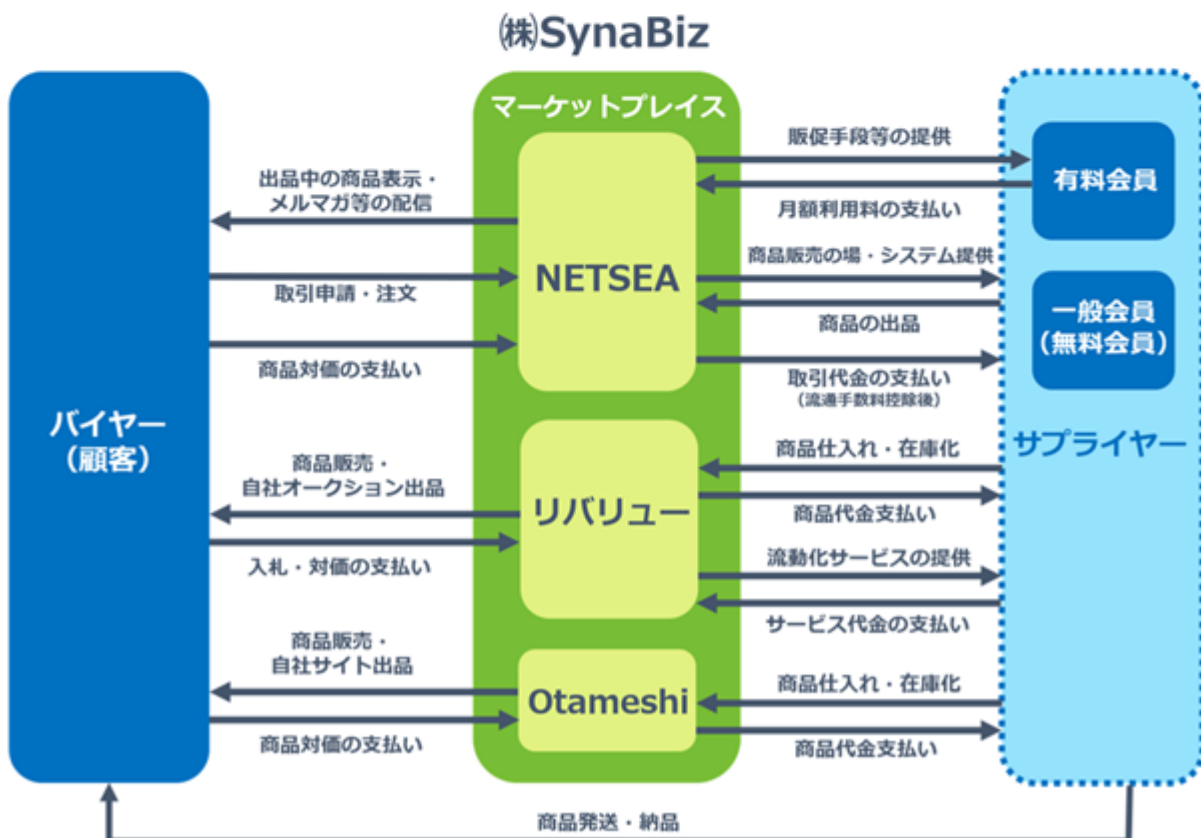
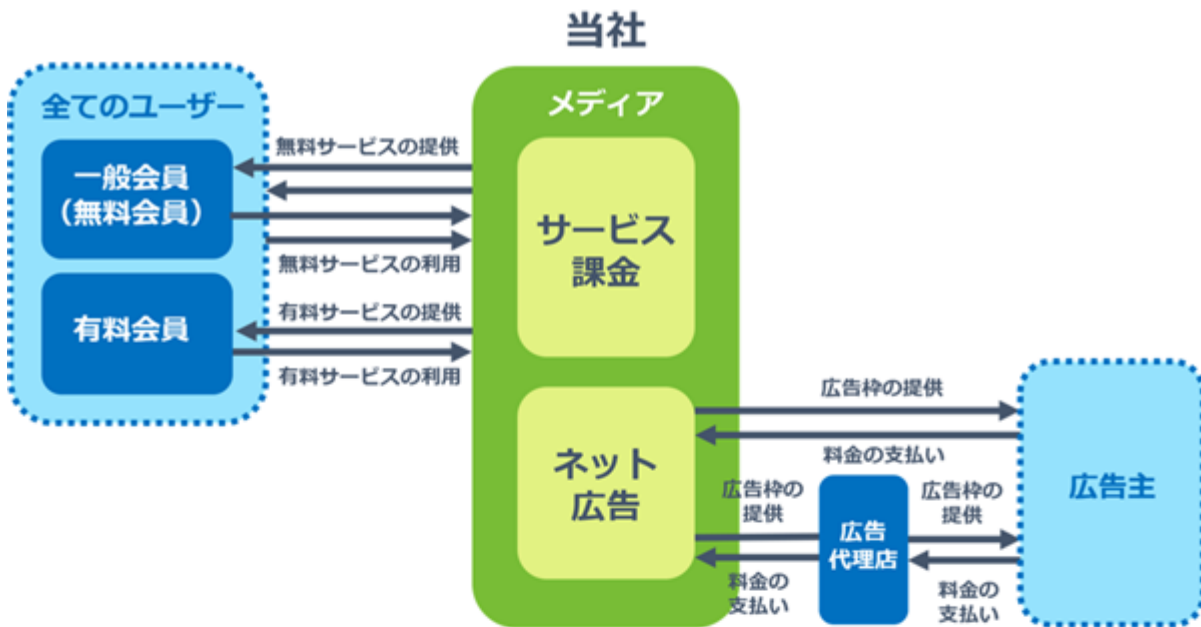
#### d. インキュベーション

「インキュベーション事業」は、当社が中長期に亘り競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とし、事業投資活動を行う事業セグメントです。

#### （2）事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。

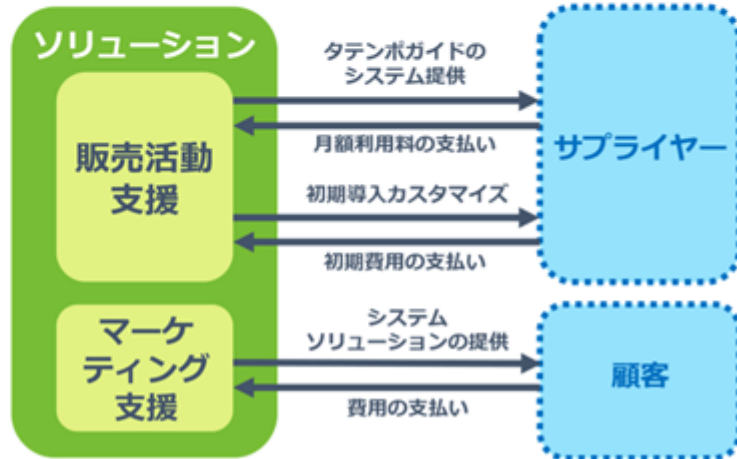




### (株)ネットプライス



### (株)スマートソーシング



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社SynaBiz (注)1.2	東京都品川区	25,000千円	BtoBマーケットプレイス事業	100.0	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社スマートソーシング	東京都品川区	10,000千円	インターネットメディア事業	92.84	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社ネットプライス (注)2	東京都品川区	100,000千円	BtoCマーケットプレイス事業	100.0	役員の兼任

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 株式会社SynaBiz及び株式会社ネットプライスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上を除く)の連結売上収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等は次の通りであります。

名称	売上高 (千円)	経常利益又は 経常損失( ) (千円)	当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	純資産額 (千円)	総資産額 (千円)
株式会社SynaBiz	2,032,748	132,085	21,380	1,230,204	1,485,562
株式会社ネットプライス	1,432,490	80,522	131,673	93,653	256,797

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2019年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
メディア	32 (5)
マーケットプレイス	56 (17)
ソリューション	8 (2)
インキュベーション	8 (0)
報告セグメント計	104 (24)
全社共通	45 (-)
合計	149 (24)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー及びインターンのみ、人材会社からの派遣社員は除く。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 従業員数が前連結会計年度末と比べて、23名減少したのは、主に、株式会社ゼロディブが連結子会社でなくなったためであります。

### (2) 提出会社の状況

2019年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
93	34.4	3.3	5,282

セグメントの名称	従業員数(人)
メディア	32
マーケットプレイス	5
ソリューション	3
インキュベーション	8
報告セグメント計	48
全社(共通)	45
合計	93

(注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

2. 臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

3. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループは、「あらゆる人が、あらゆる場所で、あらゆるモノを売り買いできる新たな時代を創る」というミッションに則り、「グローバルな循環型消費社会の先駆者であり続ける」ことをビジョンとして掲げています。また、消費者に届けられることなく廃棄される約22兆円の法人在庫に着目し、創業来蓄積した膨大な商品データを収集・蓄積・解析することで、商品の価値を予測し、価値に基づいた適切なマーケットに商品が供給される流れを作る、この循環型消費社会の実現を、当社グループで追求していきます。

当社グループが対処すべき課題は、次のとおりであります。

#### 収益基盤の更なる強化・多様化

当社グループは、オークション等相場比較メディア「オークファン」を創業以来の基盤事業として展開し、広告収益の拡大から始まり、有料会員化施策により、収益基盤を構築してまいりました。

一方、当社グループに関連するEC市場の変化のスピードは激しく、従前のネットオークションだけでなく、フリーマーケットアプリやハンドメイドマーケットなど、新たな売買の場が次々と現れております。これに呼応し、これらの場を利用するユーザの属性も従前とは大きく異なっており、当社グループにおいても、今後の更なる収益基盤の強化のために、サイトの機能性向上及びデータの拡充、新規サービスの立ち上げなどを通じて、利用者の拡大・利便性向上を図ってまいります。

同時に、株式会社SynaBizの運営する「NETSEA」、「リバリューBtoBモール」を通じて得たノウハウを活用し、付加価値サービスを積極的に展開することで事業領域の拡大を図ってまいります。

#### BtoBビジネスの収益モデル構築

当社グループでは、「オークファン」の保有する膨大なデータと、商品売買に高い関心を持つ100万人以上のユーザを核とした事業展開を行っております。「NETSEA」、「リバリューBtoBモール」などのBtoBマーケットプレイス事業を活用した商品仕入・販売に加え、複数サイト出品同期サービス「タテンポガイド」や、クラウドソーシングを活用した営業支援を行う株式会社スマートソーシングなど、当社グループの資産を一層活用し、一気通貫のソリューションメニューを整備・強化してまいります。

これらを通じて、当社グループからユーザへ提供する付加価値の向上及び新規コンテンツやサービスの拡充を通して、新しい収益モデルを構築していく方針であります。

#### システム技術・情報セキュリティの継続的な強化

当社グループの事業は、インターネット上でのサイト運営を中心としており、サービス提供に係るシステムを安全・安定に稼働させることが重要な課題であると認識しております。そのため、利用者数増加に伴う負荷分散や利用者満足度の向上を目的とした新規サービス・機能の開発等に備え、設備の先行投資を継続的に行ってまいります。

#### 多様な売買データの整備・拡充

当社グループが保有するネットオークション・ネットショッピングを中心とする約10年分の売買データは、分析・加工を経て当社グループユーザに利用されております。これらのデータは個人・法人を問わず、利用者の増加とともに、その利用方法も多岐にわたってきております。当社ではこれらのユーザニーズの多様化に応えられる分析ノウハウ・加工技術を加速度的に向上させるため、専門部署においてこれらのデータの整備を積極的に進めてまいります。

## 2【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項につきましては、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示をしております。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を十分に認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ではありますが、当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書の本項以外の記載内容も併せて慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。

なお、文中の将来に関する事項につきましては、本書提出日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

### (1) インターネット関連市場に関するリスクについて

#### インターネット及びインターネットオークション市場の動向

当社グループは、インターネットメディア事業を主たる事業領域の1つとしていることから、インターネットの更なる普及が成長のための基本的な条件と考えております。

日本国内におけるインターネット利用人口は継続的に増加し、今後も増加するものと想定されますが、その将来性には不透明な部分があります。急激な普及に伴う弊害の発生や利用に関する新たな規制の導入、その他予期せぬ要因等によって、インターネットの利用者数やインターネット市場規模が順調に成長しない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社はヤフー株式会社等が運営するインターネットオークション市場の商品情報及び価格情報の提供をユーザー向けに行っており、課金による収入を主たる事業としております。したがって、インターネットオークション市場運営者の動向により当社の事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新について

インターネット業界は、技術革新や顧客ニーズの変化のサイクルが極めて早いことを特徴としており、新たなテクノロジーを基盤としたサービスの新規参入が相次いで行われております。当社グループは、このような急速に変化する環境に柔軟に対応すべく、オープンソースを含む先端的なテクノロジーの知見やノウハウの蓄積、更には高度な技能を習得した優秀な技術者の採用を積極的に推進していく方針であります。

しかしながら、先端的なテクノロジーに関する知見やノウハウの蓄積、技術者の獲得に困難が生じる等、技術革新に関する適切な対応が遅れ、当社グループの技術的優位性やサービス競争力の低下を招いた場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 事業内容及び当社サービスに関するリスクについて

#### 特定のサービスへの依存について

当社グループは、複数のマーケットプレイスの運営をしており、主たる収益はマーケットプレイスの収入であります。2019年9月期における売上高(6,636,469千円)に占める比率は52.0%(3,449,305千円)であり、マーケットプレイス収入への依存度が高い状況にあります。今後、新たな法的規制の導入や予期せぬ事象の発生等により、サイトの利便性の低下による利用者数の減少や、サイト運営が困難となった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### サイト機能の充実について

当社グループは、利用者のニーズに対応するため、当社グループが運営する各サイトの機能の拡充を進めております。

しかしながら、今後、有力コンテンツの導入や利用者のニーズの的確な把握が困難となり、十分な機能の拡充ができず利用者に対する訴求力が低下した場合には、サイト利用者数の減少により、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 検索エンジンへの対応について

当社グループが運営するサイトの利用者の多くは、特定の検索エンジンからの集客であり、今後につきましても、検索エンジンからの集客を強化すべくSEO（検索エンジン最適化）施策を実施していく予定であります。

しかしながら、検索結果を表示する検索エンジンのアルゴリズムが大幅に変更される等、これまでのSEO施策が有効に機能しなかった場合、追加的なSEO施策費用等の発生や当社グループが運営する各サイトへの集客数が減少し、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 課金サービス利用料金における決済について

当社グループの課金サービスについては、その利用料金の回収を回収代行業者に委託しております。当社は特定の回収代行業者に依存しているわけではありませんが、特にGMOペイメントゲートウェイ株式会社への委託が大きく、売上に占める割合も高くなっているため、今後取引条件等に変更があった場合、委託先のシステムトラブルにより決済に支障が生じた場合、委託先の経営状況や財政状態が悪化した場合、その他何らかの理由により委託先との取引関係が継続できない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 『オークファン』で提供する商品情報及び価格情報について

『オークファン』において利用者に提供している価格等の商品情報及び価格情報は、各ECサイトから公開されている商品情報及び価格情報を整理統合し、統計学的補正を施したものです。当社では、各ECサイトとは良好な関係を築いており本書提出日現在当社との関係において問題はないと認識しておりますが、今後、各ECサイトの戦略方針の変更等何らかの理由により商品情報及び価格情報の取得が困難になる場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合について

当社グループは、インターネットメディア事業を主たる事業領域の1つとしておりますが、当該分野においては、大手企業を含む多くの企業が事業展開していることもあり、競合が現れる可能性があります。今後、十分な差別化や機能向上等が図られなかった場合や、新規参入等により競争が激化した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) システムに関するリスクについて

#### システム障害・通信トラブルについて

当社グループのインターネットメディア事業では、サーバーを経由して当社グループが運営するサイトの利用者にサイト機能やサービスを提供しております。また、サーバー運用に際しては、国内大手データセンターへホスティングを中心とした業務を外部に委託しております。

しかしながら、自然災害、火災、コンピュータウイルス、通信トラブル、第三者による不正行為、サーバーへの過剰負荷、人為的ミス等あらゆる原因によりサーバー及びシステムが正常に稼働できなくなった場合、あるいは当社グループが過去に蓄積してきた商品情報及び価格情報が消失した場合、当社グループのサービスが停止する可能性があります。

当社グループでは上記のような場合に備え、当社内においても商品情報及び価格情報を保存しており、当社及びデータセンターで保存することで対策を図っております。

当社グループでは上記のような対策を行っておりますが、それにもかかわらず何らかのシステム障害・通信トラブルにより当社グループのサービスが停止した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 事業拡大に伴う設備投資について

当社グループは、今後の利用者数及びアクセス数の拡大に備え、継続的なサーバー等のシステムインフラへの設備投資が必要であると認識しております。設備投資によりシステムインフラを増加したものの、想定していた利用者数及びアクセス数を下回った場合には、稼働率の低下となり、減価償却費等の費用の増加を吸収できず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制及び知的財産等に関するリスクについて

法的規制について

当社グループは、インターネット上の事業展開において各種法的規制等を受けており、その主な内容は以下のとおりであります。

- a. 特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律（プロバイダ責任制限法）  
同法における特定電気通信役務提供者として、不特定の者によって受信されることを目的とする電気通信による情報の流通において他人の権利の侵害があった場合には、権利を侵害された者に対する損害賠償義務及び権利を侵害した情報を発信した者に関する情報の開示義務を課されております。
- b. 不正アクセス行為の禁止等に関する法律（不正アクセス禁止法）  
同法におけるアクセス管理者として、努力義務ながら不正アクセス行為からの一定の防御措置を講ずる義務が課されております。
- c. 特定電子メールの送信の適正化等に関する法律（特定電子メール法）  
営利団体等が、個人（送信に同意した者等を除く。）に対し、広告・宣伝の手段として電子メールを送信する場合に、一定の事項を表示する義務等が課されております。当社グループは、会員向けメールマガジン等の配信においては、その送信につき事前に同意した会員等に対してのみ配信する方針を取っております。
- d. 特定商取引に関する法律  
当社グループの事業に関わる法的規制として、消費者保護に関して「特定商取引に関する法律」があり、規制を受けております。
- e. 青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境等に関する法律（青少年ネット規制法）  
同法における関係事業者の責務として、青少年有害情報の閲覧をする機会をできるだけ少なくするための措置を講ずるとともに、青少年のインターネットを適切に活用する能力の習得に資するための措置を講ずるよう努めることが課せられております。

上記以外にも、一般消費者を対象とした「消費者契約法」の適用を受ける他、「オークファンスクール」、「オークファンゼミ」、その他有料会員の募集及び広告の取扱いに際して「不当景品類及び不当表示防止法」の適用を受けております。

近年、インターネット上のトラブル等への対応として、インターネット関連事業を規制する法令は徐々に整備されている状況にあり、今後、インターネットの利用や関連するサービス及びインターネット関連事業を営む事業者を規制対象とする新たな法令等による規制や既存法令等の解釈変更等がなされた場合には、当社グループの事業が制約を受ける可能性があり、その場合、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

個人情報の取り扱いについて

当社グループは、事業運営に際して、当社グループのサービスを利用する会員にIDの登録を依頼しており、当社グループのデータベースサーバーには、個人情報がデータとして蓄積されております。

これらの情報については、当社グループにおいて守秘義務があります。このため当社においては個人情報の保護の徹底を図るべく、個人情報に関する個人情報管理基本規程を作成し、当社が取得・保有する個人情報の取扱方法、個人情報データベースへのアクセス制限及びアクセスログの管理について定めるとともにISMSの取得を行うなど、個人情報の漏出を防止するための方策を実施しております。具体的には、当社が知り得た情報については、当社のシステム部門を中心に、データへアクセスできる人数の制限等の漏洩防止策が講じられております。

しかしながら、当社が実施している上記方策にもかかわらず、当社からの個人情報の漏出を永久かつ完全に防止できるという保証はありません。

今後、当社グループの保有する個人情報データベースへの不正侵入や人為的ミス等を原因として、当社グループが保有する個人情報が万が一社外に漏出した場合には、当社グループの風評の低下による当社グループを経由した売買件数及び会員数の減少、当該個人からの損害賠償請求等を招く可能性があり、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。



当社グループにおける知的財産権について

当社グループは、知的財産権の保護をコンプライアンスの観点から重要な課題であると認識しております。

当社では管理部門である経営管理部により、知的財産権の管理体制を強化しておりますが、当社グループの知的財産権が侵害された場合、解決までに多くの時間及び費用が発生する等、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの属する市場がさらに成長し、ITの進展とあいまって、事業活動が複雑多様化するにつれ、競争も進み、知的財産権をめぐる紛争件数が増加する可能性があります。このような場合、当社グループが第三者の知的財産権等を侵害したことによる損害賠償請求や差止請求、又は当社グループに対するロイヤリティの支払い要求等を受けることにより、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 事業運営体制に係わるリスクについて

小規模組織であることについて

当社グループは小規模組織であり、会社の規模に応じた内部管理体制や業務執行体制となっております。このため、業容拡大に応じた人員を確保できず役職員による業務遂行に支障が生じた場合、あるいは役職員が予期せず退社した場合には、内部管理体制や業務執行体制が有効に機能せず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

人材の確保及び育成

当社グループにおいて優秀な人材の確保、育成及び定着は今後の業容拡大のための重要課題であります。新入社員及び中途入社社員に対する研修の実施をはじめ、リーダー層となる中堅社員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の確保・育成に努め、社内研修等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図っております。しかしながら、これらの施策が効果的である保証はなく、必要な人材を採用できない場合、また採用し育成した役職員が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは育成した役職員が社外流出した場合には、優秀な人材の確保に支障をきたし、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

社歴が浅いことについて

当社は2007年6月に設立され、未だ業歴が浅く成長途上にあります。したがって過去の財務情報だけでは今後の事業及び業績を予測するうえで十分な判断を提供しているとは言えない可能性があります。

特定人物への依存について

当社代表取締役である武永修一は、事業の立案や実行等会社運営において重要な役割を果たしております。当社グループといたしましては、同氏に過度に依存しない事業体制の構築を目指し、人材の育成及び強化に注力しておりますが、今後不慮の事故等何らかの理由により同氏が当社の業務を執行することが困難になった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) その他

資金使途について

当社の調達資金の使途については、主にデータ・ユーザー数増加のためのサーバー機器等の増設、サイト機能向上のためのソフトウェア開発、運営するBtoB並びにBtoCサイトにおける仕入れ、人員増加に伴う本社事務所の移転・増床等における設備投資資金及び既存事業の拡大にかかる人材採用費等に充当する計画となっております。しかしながら、インターネット関連業界その他事業環境の変化に対応するために、調達した資金が計画どおり使用されない可能性があります。また、計画どおりに使用された場合でも、想定どおりの効果を得られず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 配当政策について

当社では、利益配分につきましては、経営成績及び財政状態を勘案して、株主への利益配当を実現することを基本方針としております。しかしながら、当社は本書提出日現在成長過程にあり、将来の事業展開と財務体質強化のために必要な内部留保の確保を優先して、創業以来2019年9月期まで無配当としてまいりました。

現在は、内部留保の充実に努めておりますが、将来的には、経営成績及び財政状態を勘案しながら株主への利益の配当を検討する方針であります。ただし、配当実施の可能性及びその実施時期等については、現時点において未定であります。

#### 新株予約権の行使並びに譲渡制限付株式の発行に伴う株式価値の希薄化について

当社グループは、当社役員及び従業員に対するインセンティブを目的として、新株予約権を付与しております。

これらの新株予約権が行使された場合には、当社グループの1株当たりの株式価値が希薄化することになり、将来における株価へ影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループでは今後も新株予約権の付与を行う可能性があり、この場合、さらに1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

また、2019年11月28日開催の取締役会において、当社取締役（社外取締役を除く）、当社執行役員及び従業員並びに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員に対して譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議いたしました。

譲渡制限付株式報酬制度は、現時点において株式を割当てておりませんが、これらの株式が新株式発行により付与された場合、ストックオプション制度と同様に当社の1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

なお、本書提出日の前月末(2019年11月30日)現在、これらの新株予約権による潜在株式数は、1,050,400株であり、発行済株式総数10,469,400株の10.0%に相当します。新株予約権の詳細については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 経営成績の状況

当社グループは、「あらゆる人が、あらゆる場所で、あらゆるモノを売り買いできる新たな時代を創る」というミッションを掲げ、「グローバルな循環型消費社会の先駆者であり続ける」というビジョンのもとに、ネットオークション・ショッピングの比較検索サイト「オークファン」をはじめとした情報提供（メディア）事業、卸企業・メーカー等を対象としたマーケットプレイス事業、インターネット上での販売活動支援等を行うソリューション事業及び事業投資活動等を行うインキュベーション事業を展開しております。

当社グループが相対する市場である消費者向け電子商取引（BtoC-EC）市場は2018年に9兆2,992億円（前年比8.1%増、物販系分野のみ）と増加・市場成長が継続しております（ ）。また、上記の市場のみならず、フリマアプリ、ハンドメイドマーケットなど、消費者間EC市場（CtoC）の成長も著しく、2018年1年間でのフリマアプリの市場規模が6,392億円と急拡大を見せるなど（ ）、今後もますます当社グループの関連市場拡大が予想されます。

このような事業環境の中、当連結会計年度は、創業来のメディア事業単体の事業運営から、マーケットプレイス事業、ソリューション事業へ前連結会計年度から引き続き注力し、メディア事業及び当社グループの最大の強みである膨大な商品実売データとそこから得られる解析知見をもとに事業シナジーの拡大に取り組んでまいりました。

メディア事業においては、前連結会計年度に引き続き、「ユーザー数の拡大」と「収益基盤の強化」を重点課題として取り組んでまいりました。「ユーザー数の拡大」につきましては、プロモーション強化、SEO対策、主力事業である『aucfan.com』におけるコンテンツのオリジナリティ強化などの施策を実施いたしました。「収益基盤の強化」につきましては、副業・複業としての物販サービスのプロモーション強化、教育サービスの拡張や商品仕入サービスの拡大、また、各種Eマーケットプレイスとのアライアンス強化による広告・アフィリエイト単価の確保など、売上増加に努めてまいりました。以上の結果、売上高2,351,263千円（前年同期比22.2%増）、営業利益181,276千円（前年同期比3.4%減）となりました。

マーケットプレイス事業においては、「流通量強化」と「サービス認知の拡大」に取り組んでまいりました。「流通量強化」においては、国内最大級のBtoB卸サイト『NETSEA（ネッシー）』上でのプロモーション強化、商品供給元であるサプライヤーへのコンサルティングサービスの提供、中国・台湾及び東南アジア諸国への商品流通体制構築などの施策を実施いたしました。「サービス認知の拡大」においては、各サービスでのマーケティング施策の実行に加え、社会貢献型サンプリングサービス『Otameshi（オタメシ）』が2017年7月の立ち上げ以降、雑誌やテレビなどで度々取り上げられるなど、プロモーション施策に取り組んでまいりました。以上の結果、売上高3,449,305千円（前年同期比4.0%増）、営業損失65,213千円（前年同期は102,042千円の営業利益）となりました。

ソリューション事業においては、データとマーケットプレイス（販路）を繋ぐ戦略的事業投資を含む、当社グループにとって重要なセグメントであり、継続的に事業投資を実施しております。このような投資フェーズの中、連結範囲の変更の影響がありましたが、複数Eマーケットプレイスへの同時出品・在庫連動可能なASPサービス『タテンボガイドNEXT』の安定的な黒字化に向けた販売促進及び費用の見直しが功を奏した結果、売上高266,404千円（前年同期比38.0%減）、営業利益14,751千円（前年同期は54,016千円の営業損失）となりました。

インキュベーション事業は、事業投資活動を通じて当社が中長期に亘り競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とした事業セグメントであります。営業投資有価証券の売却及び投資先企業へのコンサルティング等を実施した結果、売上高856,827千円（前年同期比211.9%増）、営業利益540,964千円（前年同期比234.1%増）となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は6,636,469千円（前年同期比13.2%増）、営業利益は679,756千円（前年同期比65.4%増）、経常利益は672,114千円（前年同期比58.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は327,178千円（前年同期比46.1%増）となりました。当連結会計年度の自己資本当期純利益率に関しましては11.1%（前年同期比2.4ポイント増）となりました。

出典：平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）

## 財政状態の状況

### 資産の部

#### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は、4,042,482千円(前連結会計年度末は4,049,504千円)となりました。主な内訳といたしましては、現金及び預金が1,354,496千円、受取手形及び売掛金が1,011,730千円、営業投資有価証券が1,243,962千円であります。

#### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は、1,472,093千円(前連結会計年度末は1,822,160千円)となりました。主な内訳といたしましては、ソフトウェアが425,008千円、のれんが391,289千円、繰延税金資産が277,724千円であります。

#### (繰延資産)

当連結会計年度末における繰延資産は、931千円(前連結会計年度末は2,173千円)となりました。内訳といたしましては、社債発行費931千円であります。

### 負債の部

#### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債は、1,716,799千円(前連結会計年度末は1,965,168千円)となりました。主な内訳といたしましては、1年内返済予定の長期借入金が398,986千円、未払金が332,468千円、短期借入金が300,000千円、買掛金が250,301千円であります。

#### (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は、576,670千円(前連結会計年度末は1,191,511千円)となりました。主な内訳といたしましては、長期借入金が572,183千円であります。

### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産は、3,222,038千円(前連結会計年度末は2,717,158千円)となりました。主な内訳といたしましては、利益剰余金が1,727,899千円、資本金が861,157千円、資本剰余金が831,997千円であります。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より740,228千円減少し、1,354,496千円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益610,571千円、減価償却費263,032千円、のれん償却額145,957千円などの計上に対し、売上債権の増加額431,294千円、営業投資有価証券の増加額415,061千円、法人税等の支払額150,387千円、子会社株式売却益66,373千円などにより、営業活動の結果使用した資金は6,669千円(前年同期は468,010千円の獲得)となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

貸付金の回収による収入25,933千円の計上に対し、有形固定資産の取得による支出12,218千円、無形固定資産の取得による支出302,757千円などにより、投資活動の結果使用した資金は322,253千円(前年同期は222,345千円の使用)となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

新株予約権の行使による株式の発行による収入362,577千円、短期借入れによる収入500,000千円などの計上に対し、短期借入金の返済による支出500,000千円、長期借入金の返済による支出484,239千円、自己株式の取得による支出159,920千円、社債の償還による支出125,000千円などにより、財務活動の結果使用した資金は411,003千円(前年同期は818,285千円の獲得)となりました。

なお、当社グループの運転資金及び設備投資資金は自己資金並びに借入金等により充当しております。当連結会計年度の有利子負債残高は1,404,132千円となり、前連結会計年度に比べ708,643千円減少しており、自己資本比率は58.2%と依然として高い水準を維持しております。

資金の流動性に関しましては、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は1,354,496千円と十分な流動性を確保しております。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループの主たる事業は、インターネットを利用したサービスの提供であり、提供するサービスには生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

b. 受注実績

当社グループでは概ね受注から役務提供の開始までの期間が短いため、受注実績に関する記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度のセグメント別の販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	前年同期比(%)
メディア(千円)	2,102,779	113.5
マーケットプレイス(千円)	3,421,243	103.2
ソリューション(千円)	255,619	60.7
インキュベーション(千円)	856,827	311.9
合計(千円)	6,636,469	113.2

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)		当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
GMOペイメントゲートウェイ株式会社(注)2	725,217	12.2	799,376	11.8

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 回収代行契約を締結しており、上記金額は一般顧客に対する回収代行依頼金額を記載しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、この連結財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は6,636,469千円（前年同期比13.2%増）、営業利益は679,756千円（前年同期比65.4%増）、経常利益は672,114千円（前年同期比58.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は327,178千円（前年同期比46.1%増）となりました。

なお、詳細につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載しております。

b. 資本の財源及び資金の流動性について

当社グループにおける運転資金需要の主なもの、仕入費用、販売費及び一般管理費の営業費用による営業資金及び設備投資資金であります。当社グループの資金の源泉は主として営業活動によるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入による資金調達となります。

経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループの事業に関連するEC市場規模については、消費者向け（BtoC-EC）及び企業間（狭義BtoB-EC）市場規模においても好調な拡大が見込まれるものと思われま。

「企業が持つ年間22兆円規模の滞留在庫・余剰在庫」を当社グループの継続的かつ飛躍的な事業成長に取り込むため、2019年9月期においても、積極的かつ重点的な投資計画を推進しております。当社グループの成長モデルとして、メディア、マーケットプレイス、ソリューションの3領域及びこれら領域の基礎共なる購買データの蓄積並びにインキュベーション領域において、売上・KPI目標を定め、各々を伸ばしてまいります。

具体的には、メディア領域では基盤であるメディア『オークファン』のUV（ユニーク・ビジター）及び会員数がKPIであります。今後も引き続きプロモーション強化施策、SEO対策、ECサイト各社とのアライアンス強化などによるユーザー（スクール生徒数、オークファンPro会員数含む）の拡大、運営ノウハウの提供により更なる成長を図ります。

マーケットプレイス領域及びソリューション領域では流通額がKPIであります。今後もサプライヤー成長コンサルティング、海外パイヤーとの連携による新市場の開拓、物流業務の提供及びグループ間シナジーの強化により、更なる成長を図ります。また、創業来オークファンが蓄積し続けてきた膨大な商品実売データも活用し、企業のもつ滞留在庫・余剰在庫の価値を可視化し、より積極的に市場再流通を促すことで、当社グループ経由の流通額の拡大を図ってまいります。

データ蓄積においては取得件数と対応マーケットプレイス数がKPIであります。今後も引き続きクロージング/スクレイピング技術、データマイニング技術、機械学習などを活かした分析ツールの提供により、更なる成長を図ります。

インキュベーション領域では投資利回り及び情報収集がKPIであります。今後もベンチャー企業を中心とした投資を進めるとともに、当社グループを取り巻く市場環境の最新テクノロジー等の情報を収集してまいります。

経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、ミッションとして「あらゆる人が、あらゆる場所で、あらゆるモノを売り買いできる新たな時代を創る」「眠っている価値を必要な場所へ」を掲げ、「グローバルな循環型消費社会の先駆者であり続ける」というビジョンのもとに事業を展開し、在庫に悩む企業の「主治医」として流通の最適化を行う企業として、当社グループのサービス利用者及び顧客の満足度向上を図り、企業価値・株主価値の向上を目指しております。

#### 4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5【研究開発活動】

メディア事業は、680億件を超える「商品売買の実売価格」に基づく多面的なデータ解析を行っており、ユーザーにとって有益な情報を提供するため、日々研究を続けております。

当連結会計年度における当社グループ全体の研究開発活動に関わる費用の総額は、30,000千円であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、展開するサービス関連のソフトウェア開発を中心に317,355千円の設備投資を実施しました。メディア事業の『aucfan.com』の追加機能開発等に163,163千円、マーケットプレイス事業におけるBtoBサービスの追加機能開発等に92,097千円及びソリューション事業における『タテンポガイド』の追加機能開発等に62,094千円の設備投資を実施しました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2019年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)	
			建物	工具、器具 及び備品	リース資産	ソフトウェア	ソフトウェア 仮勘定		合計
本社 (東京都品川区)	メディア、 インキュ ベーション	業務施設	56,861	28,152	2,751	219,189	13,147	320,102	93
データセンター (東京都品川区)	メディア	サーバー 機器等	-	608	-	-	-	608	-

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 本社及びデータセンターは全て賃借物件であり、賃借料145,046千円であります。

##### (2) 国内子会社

2019年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
				建物	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計	
(株)SynaBiz	本社及びデータセンター (東京都品川区)	マーケット プレイス	業務施設及び サーバー機器等	0	3,020	117,334	120,354	27
(株)SynaBiz	倉庫 (埼玉県入間郡三芳町)	マーケット プレイス	倉庫施設	708	3,473	255	4,436	5

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. (株)SynaBizの本社、データセンター及び倉庫は全て賃借物件であり、賃借料51,140千円であります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。



## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年12月20日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,469,400	10,469,400	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、 株主としての権利内容に 何ら限定のない当社にお ける標準となる株式であ り、単元株式数は100株で あります。
計	10,469,400	10,469,400	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2019年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストック・オプション制度を採用しております。当該制度は、会社法の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであり、当該制度の内容は、以下のとおりであります。

回次	第8回	第9回	第11回	第12回	第13回
決議年月日	2011年12月28日	2012年12月19日	2016年1月20日	2016年2月29日	2017年7月20日
付与対象者の区分及び人数	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の数(個) 1、3	4	3	3,236	3,750	3,343
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 (株) 1、2、3	普通株式 10,000	普通株式 7,500	普通株式 323,600	普通株式 375,000	普通株式 334,300
新株予約権の行使時の払込金額(円) 4	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の行使期間	同上				
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円)	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 654 資本組入額 327	発行価格 662 資本組入額 331	発行価格 920 資本組入額 460
新株予約権の行使の条件	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を受けなければならない。				
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	5				

1. 当事業年度の末日(2019年9月30日)における内容を記載している。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2019年11月30日)において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略している。

2. 新株予約権の割当日以降に当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、株式分割又は株式併合の効力発生の時をもって次の算式により目的となる株式数(以下「付与株式数」という。)を調整し、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。なお、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていないものについてのみ行われるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割又は併合の比率

また、新株予約権割当日以降に当社が時価を下回る価額での新株の発行もしくは自己株式の処分(ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。)、合併、会社分割又は株式無償割当を行う場合等、付与株式数の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

3. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式数は、取締役会決議における新株発行予定数から、退職等により権利を喪失した者の新株予約権の数を減じている。
4. 新株予約権の割当日以降に下記の事由が生じた場合は、行使価額を調整するものとする。  
当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

当社がその時点における時価を下回る価額で新株の発行又は当社が保有する自己株式の処分（ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。）を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済普通株式総数から当社の自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新発行株式数」を「処分する自己株式数」、「新株式発行前」を「自己株式処分前」と読み替えるものとする。さらに、当社が合併等を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記の行使価額の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で行使価額を調整するものとする。

5. 当社が、合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以下総称して「組織再編行為」という。）をする場合、それぞれの場合につき、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、合併後存続する株式会社、合併により設立する株式会社、吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部もしくは一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社、又は、株式移転により設立する株式会社（以下総称して「再編対象会社」という。）の新株予約権を、次の条件にて交付するものとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を定めた吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画が、当社株主総会において承認された場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数（以下「承継後株式数」という。）とする。ただし、調整により生じる1円未満の端数は切り捨てるものとする。

新株予約権を行使することのできる期間

新株予約権を行使することのできる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権を行使することのできる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

上記「新株予約権の行使時の払込金額」及び（注）4に準じて決定する。

その他の新株予約権の行使条件並びに新株予約権の取得事由

上記「新株予約権の行使の条件」及び当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定める条件に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2014年10月1日～ 2015年9月30日 (注)	122,500	9,860,000	15,171	670,948	15,171	670,818
2015年10月1日～ 2016年9月30日 (注)	35,000	9,895,000	5,503	676,452	5,503	676,322
2016年10月1日～ 2017年9月30日 (注)	12,500	9,907,500	1,962	678,414	1,962	678,284
2017年10月1日～ 2018年9月30日 (注)	7,500	9,915,000	1,177	679,591	1,177	679,461
2018年10月1日～ 2019年9月30日 (注)	554,400	10,469,400	181,566	861,157	181,566	861,027

(注) 新株予約権の権利行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2019年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	3	27	53	36	6	4,702	4,827	-
所有株式数 (単元)	-	5,709	2,948	10,994	2,353	36	82,626	104,666	2,800
所有株式数の 割合(%)	-	5.45	2.82	10.50	2.25	0.03	78.94	100.00	-

(注) 自己株式216,851株は、「個人その他」に2,168単元、「単元未満株式の状況」に51株含めて記載しております。

(6)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
武永 修一	東京都港区	4,036,800	39.37
S173株式会社	東京都渋谷区代々木1丁目54-1	950,000	9.27
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	535,600	5.22
山下 良久	奈良県奈良市	145,500	1.42
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	116,300	1.13
池原 邦彦	神奈川県茅ヶ崎市	84,500	0.82
林 亮介	広島県廿日市市	70,000	0.68
山口 輔之	東京都豊島区	66,000	0.64
井 康彦	福岡県福岡市	63,600	0.62
角川 義捷	北海道野付郡	61,700	0.60
計	-	6,130,000	59.79

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式216,851株があります。
2. 上記大株主の状況に記載の当社代表取締役社長武永修一の所有株式数は、2019年3月4日に新株予約権を行使し554,400株を取得したことにより増加しております。
3. 上記大株主の状況に記載のS173株式会社は、当社代表取締役社長武永修一が全株式を保有する資産管理会社であります。
4. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。
5. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 535,600株
6. 2019年3月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、大和証券投資信託委託株式会社が2019年3月15日付で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
大和証券投資信託委託 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	株式 398,800	4.02

7. 2019年9月24日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、みずほ証券株式会社及びその共同保有者であるアセットマネジメントOne株式会社が2019年9月13日付で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	株式 25,800	0.25
アセットマネジメント One株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	株式 544,000	5.20

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 216,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,249,800	102,498	-
単元未満株式	普通株式 2,800	-	-
発行済株式総数	10,469,400	-	-
総株主の議決権	-	102,498	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて自社保有の自己株式であります。  
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には、自己株式51株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所 有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
株式会社オークファン	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	216,800	-	216,800	2.07
計	-	216,800	-	216,800	2.07

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2018年9月28日)での決議状況 (取得期間 2018年10月1日~2019年12月21日)	100,000	80,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	89,100	79,964,300
残存決議株式の総数及び価額の総額	10,900	35,700
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	10.90	0.00
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	10.90	0.00

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2019年3月4日)での決議状況 (取得期間 2019年3月5日~2019年4月30日)	100,000	80,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	74,500	79,898,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	25,500	102,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	25.50	0.13
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	25.50	0.13

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	51	57,901
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式数には、2019年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	216,851	-	216,851	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けておりますが、現在、成長過程にあると考えており、経営基盤の強化及び積極的な事業展開のために内部留保の充実を図り、財務体質の強化と事業拡大のための投資等に充当し、より一層の業容拡大を目指すことが株主に対する最大の利益還元につながるかと考えております。

このことから創業以来配当は実施しておらず、今後においても当面の間は、優秀な人材の採用、将来の新規サービス展開等のための必要運転資金として内部留保の充実を図る方針であります。将来的には、各事業年度の財政状態及び経営成績を勘案しながら株主への利益還元を検討していく予定ではありますが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

なお、当社は、年1回の期末配当を基本方針としており、「取締役会の決議により、毎年3月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。



#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

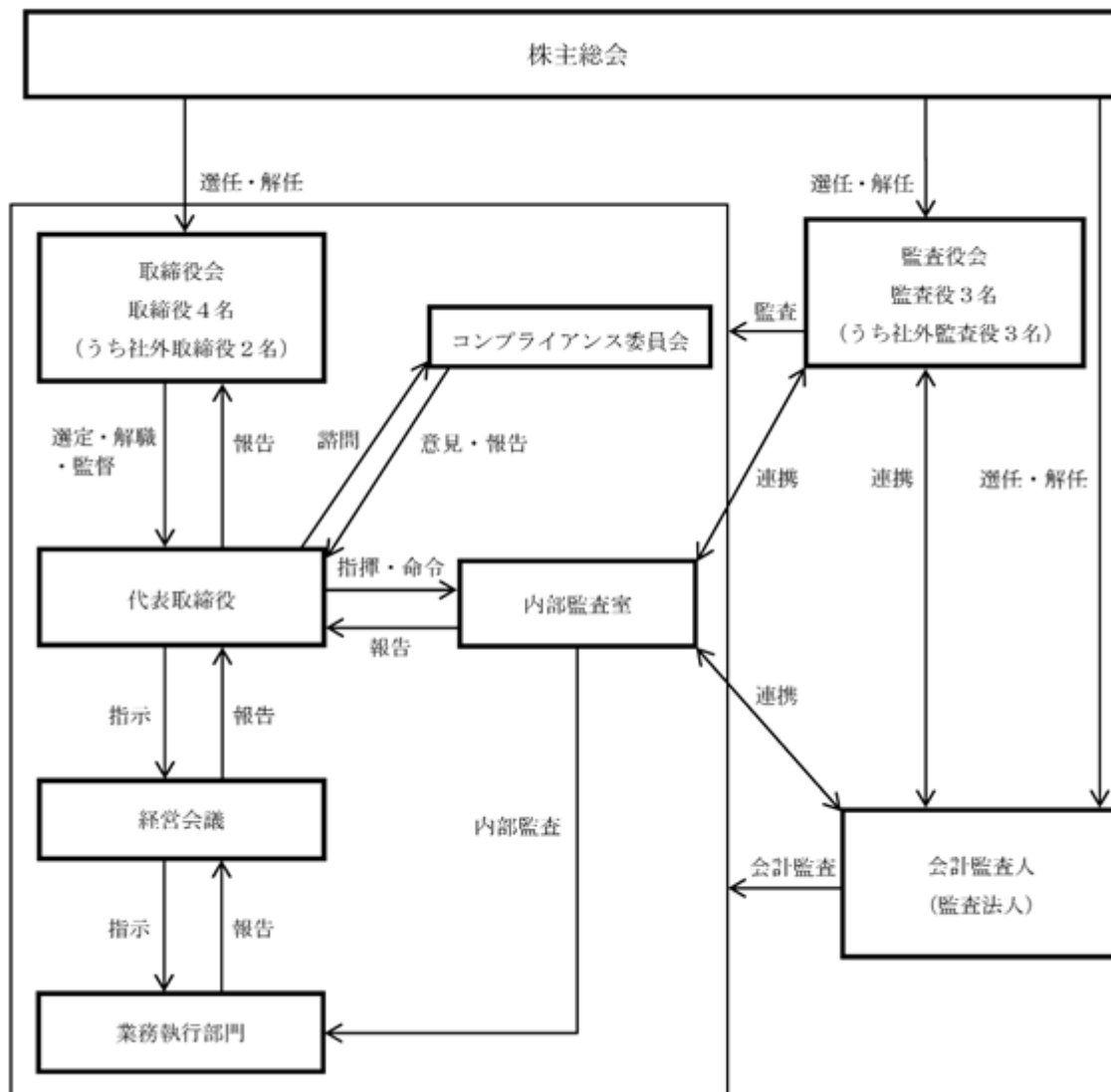
当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、健全で透明性が高く、効率的で開かれた経営を実現することにあります。そのためには、少数の取締役による迅速な意思決定及び取締役相互間の経営監視とコンプライアンスの徹底、株主等のステークホルダーを重視した透明性の高い経営、ディスクロージャーの充実とアカウンタビリティの強化が必要と考えております。

また、当社は、取締役の職務執行の有効性・効率性及び法令等の遵守を確保するため、監査役会を設置し、監査役を中心とした経営監視を行っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、会社法に規定する機関として、取締役会、監査役会、会計監査人を設置するとともに、日常業務の活動方針を決定する経営会議を設置しております。また、執行役員制度を導入しており、経営監視機能と業務執行機能を分離し、役割・責任の明確化と意思決定の迅速化を図っております。

##### a. コーポレート・ガバナンス体制図



機関ごとの構成員は次のとおりであります。( は議長もしくは委員長)

役職名	氏名	取締役会	監査役会	経営会議	コンプライアンス委員会
代表取締役社長	武永 修一				
取締役	海老根 智仁	○			
取締役(社外取締役)	嶋 聡	○			
取締役(社外取締役)	門脇 英晴	○			
常勤監査役(社外監査役)	梶 尚人	○		○	○
監査役(社外監査役)	石崎 信明	○	○		
監査役(社外監査役)	渡邊 清	○	○		
執行役員	山田 圭祐			○	○
執行役員	藤 豊			○	
執行役員	田島 宜幸			○	
執行役員	上垣 将人			○	○
執行役員	井上 正俊			○	○
執行役員	石丸 啓明			○	
関連部門従業員					○

#### b. 企業統治の体制の概要

##### (a) 取締役会

当社の取締役会は取締役4名(うち社外取締役2名)により構成されており、毎月1回の定時取締役会の他、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催し、会社の経営方針、経営戦略等経営の重要な意思決定及び業務執行の監督を行っております。取締役会には、監査役が毎回出席し、取締役の業務執行状況の監査を行っております。

##### (b) 監査役会

当社の監査役会は常勤監査役1名及び非常勤監査役2名で構成されており、全て社外監査役であります。非常勤監査役は、それぞれの専門的見地から経営監視を実施しており、常勤監査役は、取締役会以外の重要な会議にも出席する他、重要な書類の閲覧等を通して、取締役の業務執行状況を監査できる体制となっております。

監査役会に関しては、原則として毎月1回定時監査役会を開催しており、取締役会の意思決定の適正性について意見交換される他、常勤監査役から取締役等の業務執行状況の報告を行い、監査役会としての意見を協議・決定しております。

##### (c) 経営会議

当社では、代表取締役、常勤監査役並びに執行役員の他、必要に応じて代表取締役が指名する管理職が参加する経営会議を設置し、原則として毎週月曜日に開催しております。

経営会議は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、経営計画の達成及び会社業務の円滑な運営を図ることを目的として機能しております。具体的には、取締役会付議事項の協議や各部門から業務執行状況及び事業実績の報告がなされ、月次業績の予実分析と審議が行われております。加えて、重要事項の指示・伝達の徹底を図り、認識の統一を図る機関として機能しております。

(d) コンプライアンス委員会

当社では、代表取締役が任命した委員長及び委員にて構成されたコンプライアンス委員会を設置しております。

コンプライアンス委員会は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、コンプライアンスは当社にとって重要であると認識していることから「コンプライアンス規程」、「コンプライアンス委員会規程」及び「コンプライアンス・マニュアル」にて、当社としてのコンプライアンスの方針、体制、運用方法等を定め、コンプライアンス委員会を原則として毎月1回開催しております。

コンプライアンス委員会では、コンプライアンスの推進のための施策及び法令違反に対する未然防止策の協議並びに全従業員に対する法令遵守意識の浸透と徹底を図ることを目的とした機関として機能しております。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社では、企業の透明性と公平性の確保に関して、取締役会にて「内部統制システムに関する基本方針」及び各種社内規程を制定し、内部統制システムを整備するとともに、運用の徹底を図っております。また、規程遵守の実態確認と内部統制機能が有効に機能していることを確認するために、代表取締役が選任した内部監査室による内部監査を実施しております。内部監査室は、監査役及び会計監査人とも連携し、監査の実効性を確保しております。

b. リスク管理体制の整備の状況

当社では、各部門での情報収集をもとに経営会議やコンプライアンス委員会などの重要会議を通じてリスク情報を共有しつつ、「リスク管理規程」、「情報セキュリティ規程」、「個人情報管理基本規程」に基づく活動を通じ、リスクの早期発見及び未然防止に努めております。また、必要に応じて弁護士、公認会計士、弁理士、税理士、社会保険労務士等の外部専門家からアドバイスを受けられる良好な関係を構築するとともに、監査役監査及び内部監査を通じて、潜在的なリスクの早期発見及び未然防止によるリスク軽減に努めております。

なお、事業活動上の重大な事態が発生した場合には、代表取締役を長とした対策部を設置し、迅速かつ的確に対応し、損失・被害等を最小限にとどめるための体制を整えております。

c. 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の取締役、執行役、社員等の職務の執行に関わる事項の報告に関する体制、子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制、子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制につきましては、子会社の経営・財務等に関する重要な事項については当社報告事項とするとともに、重要な意思決定については当社承認事項としております。また、当社の取締役及び監査役が主要な子会社の取締役及び監査役を兼務し、毎月開催する子会社の定例取締役会及び子会社に対する期中の監査役監査にて体制の確保を図っております。

d. 取締役の定数

当社の取締役の定数は8名以内とする旨を定款に定めております。

e. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

f. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

g . 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役2名及び社外監査役3名は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額としております。なお、当該責任限定契約が認められるのは、当該社外取締役又は監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

h . 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、株主総会決議に基づく剰余金の配当に加え、取締役会決議により毎年3月31日を基準日として、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）ができる旨を定款に定めております。

i . 自己株式

当社は、自己株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

## (2) 【役員の状況】

## 役員一覧

男性7名 女性 - 名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	武永 修一	1978年5月14日生	2004年4月 株式会社デファクトスタンダード 設立 代表取締役 就任 2007年6月 当社 設立 代表取締役 就任(現任) 2014年9月 株式会社AMBITION 社外取締役 就任 2014年11月 グランドデザイン株式会社 取締役 就任 2015年7月 株式会社NETSEA(現:株式会社SynaBiz) 代表取締役 就任(現任) 2015年9月 株式会社AMBITION 社外取締役(監査等委員) 就任(現任) 2016年4月 株式会社デジファン 取締役 就任 2016年7月 株式会社スマートソーシング 取締役 就任 2016年12月 株式会社スマートソーシング 代表取締役 就任(現任) 2017年12月 株式会社ネットプライス 取締役 就任 2018年3月 株式会社ネットプライス 代表取締役 就任(現任)	(注)3	4,036,800
取締役	海老根 智仁	1967年8月30日生	1991年4月 株式会社大広 入社 1999年9月 株式会社オプト(現:株式会社オプトホールディング) 入社 2001年1月 同社 代表取締役COO 就任 2006年1月 同社 代表取締役CEO 就任 2007年11月 株式会社トライステージ 取締役 就任 2008年3月 株式会社オプト(現:株式会社オプトホールディング) 代表取締役社長CEO 就任 2009年3月 同社 取締役会長 就任 2010年3月 株式会社モブキャスト(現:株式会社モブキャストホールディングス) 取締役 就任 2014年3月 株式会社レジェンド・パートナーズ 代表取締役会長 就任 2014年4月 株式会社モブキャスト(現:株式会社モブキャストホールディングス) 取締役 経営企画室 最高顧問 就任 2015年7月 同社 取締役 社長室 最高顧問 就任(現任) 2015年9月 株式会社レジェンド・パートナーズ 取締役会長 就任(現任) 2016年4月 HOMMA, Inc. 取締役 就任(現任) 2018年12月 当社 取締役 就任(現任) 2019年6月 NES株式会社 取締役 就任(現任)	(注)3	2,800
取締役	嶋 聡	1958年4月25日生	1986年4月 財団法人松下政経塾(現:公益財団法人松下政経塾) 卒塾 1996年10月 衆議院議員 当選 以後3期連続当選 2005年11月 ソフトバンク株式会社(現:ソフトバンクグループ株式会社) 社長室長 就任 2007年4月 サイバー大学 客員教授 就任 2007年4月 東洋大学経済学部 非常勤講師 就任 2011年7月 自然エネルギー協議会 事務局長代行 2011年7月 指定都市自然エネルギー協議会 事務局長代行 2011年7月 公益財団法人東日本大震災復興支援財団 評議員 2011年7月 公益財団法人自然エネルギー財団 理事 就任 2012年9月 Clean Energy Asia LLC Member of the board of directors 就任 2014年4月 ソフトバンク株式会社(現:ソフトバンクグループ株式会社) 顧問 就任 2014年4月 ソフトバンクモバイル株式会社(現:ソフトバンク株式会社) 特別顧問 就任 2014年9月 多摩大学 非常勤講師 就任 2015年4月 多摩大学 客員教授 就任(現任) 2017年6月 株式会社ミクシィ 社外取締役 就任(現任) 2017年12月 当社 社外取締役 就任(現任) 2018年10月 株式会社アイモバイル 社外取締役 就任(現任)	(注) 1、3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	門脇 英晴	1944年6月20日生	1968年4月 株式会社三井銀行(現:株式会社三井住友銀行)入行 2001年4月 株式会社三井住友銀行 代表取締役専務取締役兼専務執行役員 就任 2002年12月 株式会社三井住友フィナンシャルグループ 代表取締役専務取締役 就任 2003年6月 同社 代表取締役副社長 就任 2003年6月 相模鉄道株式会社 監査役 就任 2004年6月 三井物産株式会社 監査役 就任 2004年6月 株式会社日本総合研究所 理事長 就任 2007年6月 三井化学株式会社 監査役 就任 2008年6月 株式会社日本総合研究所 特別顧問・シニアフェロー(現任) 就任 2018年6月 株式会社シーボン 社外取締役(現任) 就任 2018年6月 総合警備保障株式会社 社外取締役(現任) 就任 2019年12月 当社 社外取締役 就任(現任)	(注) 1、3	-
常勤監査役	梶 尚人	1960年3月31日生	1990年1月 日本合成ゴム株式会社(現:JSR株式会社) 入社 1997年9月 日本タンデムコンピュータ株式会社(現:日本ヒューレット・パッカード株式会社) 入社 管理部契約管理担当マネージャー 1998年1月 コンパックコンピュータ株式会社(現:日本ヒューレット・パッカード株式会社) 入社 法務部マネージャー 1999年6月 株式会社ディレク・ティービー 入社 総務・法務部法務課長 2000年3月 株式会社ファーストリテイリング 入社 管理部法務チームリーダー 2002年9月 株式会社アトラス 入社 AM事業本部 中国担当ゼネラル・マネージャー 2004年11月 AIGエジソン生命保険株式会社(現:ジブラルタ生命保険株式会社) 入社 コンプライアンス本部法務課長 2006年2月 デル株式会社 入社 コントラクト・マネジメント・ディレクター 2007年6月 株式会社ヒガ・インダストリーズ(現:株式会社ドミノ・ピザジャパン) 監査役 就任 2011年8月 当社監査役 就任 2013年12月 合同会社西友 入社 コンプライアンス本部 ディレクター 2016年12月 株式会社Synabiz 監査役 就任(現任) 2016年12月 株式会社デジファン 監査役 就任 2016年12月 株式会社スマートソーシング 監査役 就任(現任) 2016年12月 当社 常勤監査役 就任(現任) 2017年12月 株式会社ネットプライス 監査役 就任(現任)	(注) 2、4	-
監査役	石崎 信明	1960年6月7日生	1983年4月 藤和不動産株式会社(現:三菱地所レジデンス株式会社) 入社 2000年4月 経営コンサルタント業 開業(現任) 2001年4月 株式会社オプト(現:株式会社オプトホールディング) 常勤社外監査役 就任 2015年4月 株式会社オプト 監査役 就任(現任) 2016年4月 株式会社オプトホールディング 社外取締役(監査等委員) 就任(現任) 2017年12月 株式会社グローバルグループ 社外監査役 就任(現任) 2017年12月 当社 監査役 就任(現任)	(注) 2、4	-
監査役	渡邊 清	1956年9月23日生	1985年10月 司法試験 合格 1988年3月 司法修習(第40期) 修了 1988年4月 東京地方検察庁刑事部 検事 任官 その後、各地方検察庁等 勤務 2005年4月 広島地方検察庁 総務部長 就任 2007年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2008年4月 前橋地方検察庁 高崎支部長 就任 2010年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2011年4月 広島高等検察庁 総務部長 就任 2011年4月 広島修道大学法科大学院 非常勤講師 就任 2013年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任 2013年8月 横浜地方検察庁 相模原支部長 就任 2015年4月 広島高等検察庁 公安部長 就任 2016年3月 検事 退官 2016年4月 弁護士登録(東京弁護士会)、清風法律事務所(現任) 2017年12月 当社 社外監査役 就任(現任)	(注) 2、4	-
計					4,039,600

- (注) 1. 取締役嶋聡及び門脇英晴は、社外取締役であります。
2. 監査役梶尚人、石崎信明及び渡邊清は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2019年12月20日開催の定時株主総会終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役任期は、2016年12月22日開催の定時株主総会終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。なお、監査役石崎信明及び渡邊清の任期は、任期満了前に退任した監査役の補欠として選任されたため、2017年12月22日開催の定時株主総会終結の時から退任した監査役の任期の満了する時までとなっております。
5. 当社では、経営環境の変化への迅速な対応と組織の活性化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は6名で、インキュベーション事業部部長井上正俊、サービス開発部部長上垣将人、ソリューション第一事業部部長田島宜幸、ソリューション第二事業部部長石丸啓明、組織開発室室長藤豊及び経営管理部部長山田圭祐で構成されております。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役嶋聡は、衆議院議員としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外取締役門脇英晴は、長年にわたる大手金融機関等における経営者として培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役梶尚人は、国際的な大手企業の法務・コンプライアンス部門を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

監査役石崎信明氏は、中小企業診断士の資格を有しており、また上場企業における財務及び会計に関する業務並びに監査役としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

監査役渡邊清氏は、検察官及び弁護士としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

当社においては、社外取締役又は社外監査役を選任するための会社からの独立性に関する基準や方針について特段の定めはありませんが、その独立性に関しては、株式会社東京証券取引所が定める基準を参考にしており、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役を選任しており、経営の独立性を確保していると認識しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会においてコンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に報告を受けるとともに、専門的見地から質問及び提言をすることにより、経営の監督機能を発揮しています。

また、社外監査役は、取締役会に出席し、コンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に把握するとともに、重要な会議に出席し、代表取締役との会合を定期的に開催しています。また、内部監査機能を有する内部監査人、会計監査人等からの報告や意見交換を通じ、連携して監査の実効性を高めています。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役監査につきましては、当社の監査役会は独立性を確保した社外監査役3名を含む監査役3名で構成されており、監査役会は原則として月1回以上開催しております。

また、監査役会は、内部監査室より監査計画、業務執行状況及び監査結果等について適宜報告を受け、内部監査室と情報及び意見の交換を行うとともに、監査役監査情報も内部監査室に開示されており、監査事項及び報告事項等の情報共有化に努めております。

内部監査の状況

内部監査につきましては、内部監査室により内部統制の有効性及び業務執行状況について、監査及び調査を定期的実施しております。内部監査を実施した都度内部監査室による代表取締役への監査実施結果の報告及び被監査部門による改善結果の報告を行うこととしております。内部監査室は、事業年度末に内部監査計画を作成し、翌事業年度に計画に基づいて内部監査を実施し、内部監査実施結果の報告並びに内部監査指導事項の改善状況の調査及び結果報告を代表取締役に行っております。

(内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携)

内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携としては、監査役会は、会計監査人から会計監査報告を通じ、会計上及び内部統制上の課題等について説明を受け、必要な対処を行っております。内部監査室も監査役と同様、会計監査人との連携を図って意見交換を実施しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

監査法人アヴァンティア

当社は、監査法人アヴァンティアと監査契約を締結し、会計に関する事項の監査を受けておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には、特別の利害関係はありません。

b. 業務を執行した公認会計士

代表社員業務執行社員 木村 直人  
業務執行社員 藤田 憲三

c. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士6名、その他5名

d. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表している「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」等を参考に、会計監査人の品質管理の状況、独立性及び専門性、監査体制が整備されていること、具体的な監査計画並びに監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえたうえで、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、会計監査人における独立性・専門性及び監査活動の適切性・妥当性等に関する評価項目を設け、項目ごとに評価のために必要な資料を社内関係部門及び会計監査人から入手することや報告を受けることで、監査品質の評価を行っています。



監査報酬の内容等

監査報酬の内容等「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56) d (f) から の規定に経過措置を適用しております。

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	31,200	-	34,200	-
連結子会社	-	-	-	-
計	31,200	-	34,200	-

(注) 当連結会計年度の金額には、前連結会計年度に係る監査に対する追加報酬3,000千円を含めております。

b. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査時間等の妥当性を勘案、協議し、監査役会の同意を得たうえで決定することとしております。

d. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりませんが、株主総会において承認された報酬限度額を上限として、各取締役の職責や実績等を勘案し、取締役会の審議を経て決定しております。

b. 役員の報酬等に関する株主総会の決議があるときの当該株主総会の決議年月日及び当該決議の内容

取締役の報酬等については、2013年1月24日開催の臨時株主総会の決議により承認された年額200,000千円(使用人分給与を含まない。)の範囲内で、2019年1月22日開催の取締役会において、各取締役の職責や実績等を勘案し、報酬額を決定しております。なお、当該臨時株主総会の決議時の取締役の員数は5名でした。

監査役の報酬等については、2012年12月19日開催の定時株主総会の決議により承認された年額30,000千円の範囲内で、監査役会において決定しております。なお、当該定時株主総会の決議時の監査役の員数は3名でした。

c. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者の氏名又は名称、その権限の内容及び裁量の範囲

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会であり、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めておりませんが、必要があると認められるときは、当社の業績、役員の職責や実績等を勘案し、合理的な範囲内においてその権限を行使します。

d. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に関与する委員会等の手続の概要

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に関与する委員会は設置していませんので、該当事項はありません。

- e. 当事業年度における役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び委員会等の活動内容  
b. に記載のとおり決定しております。

f. 当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標及び実績

当社の役員の報酬等には業績連動報酬は含まれておりませんので、該当事項はありません。なお、2019年12月20日開催の定時株主総会において、取締役（社外取締役を除く。）に対する譲渡制限付株式の付与のための報酬決定の件として、社外取締役を除く取締役に対し、譲渡制限付株式の付与のために金銭報酬債権を報酬として支給する譲渡制限付株式報酬制度を導入する決議がされております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	27,750	27,750	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	20,580	20,580	-	-	7

役員ごとの連結報酬等の総額

役員報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載していません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動や株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を、純投資目的である投資株式としております。一方、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式  
該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	59	1,049,092	48	728,641
非上場株式以外の株式	2	25,122	-	-

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	524,521	11,469
非上場株式以外の株式	-	124,019	-

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年10月1日から2019年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年10月1日から2019年9月30日まで)の財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等について迅速に対応できる体制を整備するため、財務・会計専門情報誌の定期購読及び監査法人やディスクロージャー支援会社等が主催するセミナーへ積極的に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,094,725	1,354,496
受取手形及び売掛金	594,049	1,011,730
営業投資有価証券	897,224	1,243,962
商品	173,248	134,554
仕掛品	60,050	974
貯蔵品	2,599	2,510
未収入金	148,881	213,232
その他	114,015	138,726
貸倒引当金	35,289	57,704
流動資産合計	4,049,504	4,042,482
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	68,800	57,569
工具、器具及び備品(純額)	48,540	36,396
その他(純額)	3,700	3,098
有形固定資産合計	1,121,041	1,97,064
無形固定資産		
のれん	601,526	391,289
ソフトウェア	406,790	425,008
ソフトウェア仮勘定	129,134	49,630
その他	1,682	1,442
無形固定資産合計	1,139,133	867,371
投資その他の資産		
長期貸付金	-	54,361
繰延税金資産	373,650	277,724
その他	188,334	175,571
投資その他の資産合計	561,984	507,657
固定資産合計	1,822,160	1,472,093
繰延資産		
社債発行費	2,173	931
繰延資産合計	2,173	931
資産合計	5,873,838	5,515,508
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	277,172	250,301
短期借入金	2,300,000	2,300,000
1年内償還予定の社債	125,000	125,000
1年内返済予定の長期借入金	499,677	398,986
未払法人税等	74,563	107,177
未払金	353,122	332,468
ポイント引当金	5,689	3,862
その他	329,942	199,003
流動負債合計	1,965,168	1,716,799
固定負債		
社債	125,000	-
長期借入金	1,063,099	572,183
その他	3,412	4,487
固定負債合計	1,191,511	576,670
負債合計	3,156,679	2,293,469

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	679,591	861,157
資本剰余金	650,361	831,997
利益剰余金	1,400,720	1,727,899
自己株式	43,251	203,171
株主資本合計	2,687,422	3,217,883
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,855	9,385
その他の包括利益累計額合計	16,855	9,385
新株予約権	8,500	7,130
非支配株主持分	4,380	6,410
純資産合計	2,717,158	3,222,038
負債純資産合計	5,873,838	5,515,508

## 【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
売上高	5,863,720	6,636,469
売上原価	3,148,911	3,500,066
売上総利益	2,714,808	3,136,403
販売費及び一般管理費	1 2,303,837	1, 2 2,456,646
営業利益	410,970	679,756
営業外収益		
受取利息及び配当金	925	912
為替差益	1,619	276
保険解約返戻金	5,780	-
助成金収入	-	570
社会保険料還付金	-	1,407
その他	19,922	4,323
営業外収益合計	28,247	7,490
営業外費用		
支払利息	8,641	8,324
リース解約損	-	1,575
その他	7,036	5,232
営業外費用合計	15,677	15,131
経常利益	423,540	672,114
特別利益		
子会社株式売却益	-	66,373
新株予約権戻入益	12,831	815
事業譲渡益	15,529	-
その他	-	277
特別利益合計	28,360	67,466
特別損失		
減損損失	4 108,492	4 104,189
貸倒損失	61,060	-
固定資産除却損	3 2,070	3 20,590
子会社移転費用	6,121	-
その他	-	4,230
特別損失合計	177,745	129,010
税金等調整前当期純利益	274,154	610,571
法人税、住民税及び事業税	128,825	176,394
法人税等調整額	69,919	103,365
法人税等合計	58,905	279,759
当期純利益	215,249	330,811
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	223,913	327,178
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失( )	8,664	3,632

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,388	26,240
その他の包括利益合計	5 6,388	5 26,240
包括利益	221,637	304,570
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	230,301	300,938
非支配株主に係る包括利益	8,664	3,632

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	678,414	649,184	1,176,807	43,251	2,461,154
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	1,177	1,177			2,354
親会社株主に帰属する当期純利益			223,913		223,913
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	1,177	1,177	223,913	-	226,267
当期末残高	679,591	650,361	1,400,720	43,251	2,687,422

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	10,466	10,466	21,346	13,044	2,506,011
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）					2,354
親会社株主に帰属する当期純利益					223,913
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,388	6,388	12,845	8,664	15,121
当期変動額合計	6,388	6,388	12,845	8,664	211,146
当期末残高	16,855	16,855	8,500	4,380	2,717,158



当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	679,591	650,361	1,400,720	43,251	2,687,422
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	181,566	181,566			363,132
親会社株主に帰属する当期純利益			327,178		327,178
自己株式の取得				159,920	159,920
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		70			70
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	181,566	181,636	327,178	159,920	530,460
当期末残高	861,157	831,997	1,727,899	203,171	3,217,883

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	16,855	16,855	8,500	4,380	2,717,158
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）					363,132
親会社株主に帰属する当期純利益					327,178
自己株式の取得					159,920
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					70
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26,240	26,240	1,369	2,029	25,580
当期変動額合計	26,240	26,240	1,369	2,029	504,880
当期末残高	9,385	9,385	7,130	6,410	3,222,038

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	274,154	610,571
減価償却費	283,139	263,032
のれん償却額	158,226	145,957
減損損失	108,492	104,189
貸倒引当金の増減額(は減少)	12,749	22,414
ポイント引当金の増減額(は減少)	706	1,827
受取利息及び受取配当金	925	912
支払利息	8,641	8,324
子会社株式売却損益(は益)	-	66,373
固定資産除却損	2,070	20,590
売上債権の増減額(は増加)	94,761	431,294
営業投資有価証券の増減額(は増加)	394,083	415,061
たな卸資産の増減額(は増加)	21,541	14,491
仕入債務の増減額(は減少)	99,491	31,181
未払金の増減額(は減少)	39,244	13,744
その他	71,104	49,039
小計	554,833	151,153
利息及び配当金の受取額	925	912
利息の支払額	9,226	8,347
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	78,521	150,387
営業活動によるキャッシュ・フロー	468,010	6,669
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	11,999	12,218
無形固定資産の取得による支出	300,564	302,757
事業譲渡による収入	15,529	-
事業譲受による支出	2,777	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	<sup>2</sup> 108,657	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	<sup>3</sup> 24,327
差入保証金の回収による収入	123,322	1,637
差入保証金の差入による支出	1,728	195
貸付金の回収による収入	60,000	25,933
貸付けによる支出	-	13,313
その他	4,530	2,988
投資活動によるキャッシュ・フロー	222,345	322,253
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	300,000	500,000
短期借入金の返済による支出	100,000	500,000
長期借入れによる収入	1,200,000	-
長期借入金の返済による支出	457,292	484,239
社債の償還による支出	125,000	125,000
自己株式の取得による支出	-	159,920
新株予約権の行使による株式の発行による収入	2,340	362,577
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	1,532
リース債務の返済による支出	1,762	2,889
財務活動によるキャッシュ・フロー	818,285	411,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,813	301
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,065,764	740,228
現金及び現金同等物の期首残高	1,028,960	2,094,725
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 2,094,725	<sup>1</sup> 1,354,496

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

株式会社SynaBiz

株式会社スマートソーシング

株式会社ネットプライス

前連結会計年度において、連結子会社でありました株式会社ゼロディブについては、保有株式を売却したため、連結の範囲から除いております。なお、持分比率減少時までの損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書のみを連結しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3年～15年
工具、器具及び備品	2年～15年
その他の有形固定資産	3年～4年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間（5年以内）

市場販売目的のソフトウェア 見込販売可能期間（1～3年）

その他の無形固定資産 10年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間（5年）にわたり均等償却しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建その他有価証券は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券差額金に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り（5～8年）、当該期間にわたり均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年9月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」に表示していた126,245千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」373,650千円に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	163,412千円	194,280千円

2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	300,000千円	300,000千円
差引額	400,000千円	400,000千円

(連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
給料手当	561,370千円	501,531千円
荷造運賃	238,217	249,372
業務委託料	181,925	203,827
広告宣伝費	103,188	187,006
貸倒引当金繰入額	5,998	22,414
ポイント引当金繰入額	706	1,827

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
	- 千円	30,000千円

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
工具、器具及び備品	60千円	0千円
ソフトウェア	-	19,072
ソフトウェア仮勘定	2,009	1,518

4 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

(1)減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	メディア	事業用資産	のれん
東京都品川区	ソリューション	事業用資産	ソフトウェア

(2)減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額、若しくは帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。

(3)減損損失の金額

のれん	3,439千円
ソフトウェア	105,052千円

(4)資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5)回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

(1)減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	メディア	事業用資産	のれん
東京都品川区	マーケットプレイス	事業用資産	建物
			工具、器具及び備品
			その他（有形固定資産）
			のれん
			ソフトウェア
			ソフトウェア仮勘定
東京都品川区	ソリューション	事業用資産	のれん

(2)減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しました。

(3)減損損失の金額

建物	439千円
工具、器具及び備品	3,485千円
その他（有形固定資産）	1,803千円
のれん	53,796千円
ソフトウェア	15,497千円
ソフトウェア仮勘定	29,166千円

(4)資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5)回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

5 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	116,347千円	90,340千円
組替調整額	107,139	124,019
税効果調整前	9,208	33,679
税効果額	2,819	7,438
その他有価証券評価差額金	6,388	26,240
その他の包括利益合計	6,388	24,240

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	9,907,500	7,500	-	9,915,000
合計	9,907,500	7,500	-	9,915,000
自己株式				
普通株式	53,200	-	-	53,200
合計	53,200	-	-	53,200

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加7,500株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約 権の目的 となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	14
	第10回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	440
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	878
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,750
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,384
合計		-	-	-	-	-	8,500

(注) 第13回ストック・オプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。



当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）1	9,915,000	554,400	-	10,469,400
合計	9,915,000	554,400	-	10,469,400
自己株式				
普通株式（注）2	53,200	163,651	-	216,851
合計	53,200	163,651	-	216,851

（注）1. 普通株式の発行済株式総数の増加554,400株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 自己株式の増加163,651株は、2018年9月28日開催の取締役会決議による自己株式の取得による増加89,100株、2019年3月4日開催の取締役会決議による自己株式の取得による増加74,500株、単元未満株式の買取りによる増加51株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約 権の目的 となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	14
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	323
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,750
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,008
合計		-	-	-	-	-	7,130

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	2,094,725千円	1,354,496千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	- "	- "
現金及び現金同等物	2,094,725 "	1,354,496 "

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

株式の取得により新たに株式会社ネットプライス他1社(以下、新規連結子会社)を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに新規連結子会社株式の取得価額と新規連結子会社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	507,240 千円
固定資産	229,710 千円
のれん	40,133 千円
流動負債	408,831 千円
固定負債	238,790 千円
新規連結子会社株式の取得価額	129,461 千円
短期貸付金	66,000 千円
新規連結子会社の現金及び現金同等物	86,803 千円
差引: 連結範囲の変更を伴う子会社株式取得のための支出	108,657 千円

当連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

株式の売却により株式会社ゼロディプが連結子会社でなくなったことに伴う連結除外時の資産及び負債の内訳並びに株式売却価額と売却による支出は次のとおりであります。

流動資産	106,619 千円
固定資産	71,555 千円
のれん	10,483 千円
流動負債	167,193 千円
固定負債	87,838 千円
子会社株式売却益	66,373 千円
売却価額	0 千円
現金及び現金同等物	24,327 千円
差引: 連結範囲の変更を伴う子会社株式売却による支出	24,327 千円

(リース取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用に関しては、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については自己資金からの充当、銀行等金融機関からの借入れ、及び社債の発行による方針であります。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び貸付金は、顧客及び貸付先の信用リスクを抱えております。当該リスクにつきましては与信管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。営業投資有価証券は投資育成を目的としたベンチャー企業投資に関連する株式であり、投資先の信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。営業投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、取引先企業等との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である買掛金等は、1年以内の支払期日となっております。また、買掛金、借入金及び社債は流動性リスクに晒されておりますが、当該リスクにつきましては、月次単位での支払予定を把握するなどの方法により、当該リスクを管理しております。また、ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

為替及び金利の変動リスクについては、常時モニタリングしており、リスクの軽減に努めております。

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに決済期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

非上場株式及び投資事業有限責任組合への出資については、定期的に発行体の財務状況を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（2018年9月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,094,725	2,094,725	-
(2) 受取手形及び売掛金	594,049	594,049	-
(3) 未収入金	148,881	148,881	-
資産計	2,837,655	2,837,655	-
(1) 買掛金	277,172	277,172	-
(2) 短期借入金	300,000	300,000	-
(3) 未払金	353,122	353,122	-
(4) 社債(1年内償還予定の社債含む)	250,000	250,000	-
(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	1,562,776	1,561,281	1,494
負債計	2,743,071	2,741,576	1,494

当連結会計年度（2019年9月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,354,496	1,354,496	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,011,730	1,011,730	-
(3) 営業投資有価証券	25,122	25,122	-
(4) 未収入金	213,232	213,232	-
(5) 短期貸付金及び長期貸付金 ( )	64,327	64,707	380
資産計	2,668,909	2,669,289	380
(1) 買掛金	250,301	250,301	-
(2) 短期借入金	300,000	300,000	-
(3) 1年内償還予定の社債	125,000	125,000	-
(4) 未払金	332,468	332,468	-
(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	971,169	974,450	3,281
(6) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)	7,963	8,560	597
負債計	1,986,902	1,990,781	3,878

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 営業投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。

(5) 短期貸付金及び長期貸付金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 1年内償還予定の社債

当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。ただし、変動金利であるため市場金利を反映し、当社の信用状態は発行後に大きく異なっていないため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)、(6) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
非上場株式( )	728,641	1,049,092
投資事業有限責任組合への出資 ( )	168,503	169,747
新株予約権( )	80	-

( ) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2018年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,094,725	-	-	-
受取手形及び売掛金	594,049	-	-	-
合計	2,688,774	-	-	-

当連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,354,496	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,011,730	-	-	-
短期貸付金及び長期貸付金( )	9,965	40,243	14,118	-
合計	2,376,192	40,243	14,118	-

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。

4. 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2018年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	300,000	-	-	-	-	-
社債	125,000	125,000	-	-	-	-
長期借入金	499,677	416,714	252,886	234,104	129,215	30,180
合計	924,677	541,714	252,886	234,104	129,215	30,180

当連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	300,000	-	-	-	-	-
1年内償還予定の社債	125,000	-	-	-	-	-
長期借入金	398,986	237,112	219,980	115,091	-	-
合計	823,986	237,112	219,980	115,091	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

前連結会計年度(2018年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	149,289	144,371	4,918
	(2)その他	82,914	58,482	24,432
	小計	232,204	202,853	29,350
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	579,351	582,714	3,362
	(2)その他	85,668	87,363	1,694
	小計	665,020	670,077	5,056
合計		897,224	872,930	24,293

当連結会計年度(2019年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	34,102	32,167	1,935
	(2)その他	59,553	58,366	1,186
	小計	93,665	90,534	3,121
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	1,040,112	1,049,414	9,301
	(2)その他	110,194	113,399	3,204
	小計	1,150,307	1,162,813	12,506
合計		1,243,962	1,253,348	9,385

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1)株式	260,045	185,390	-
(2)その他	-	-	-

当連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1)株式	782,093	648,541	-
(2)その他	-	-	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(2018年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2019年9月30日)

当連結会計年度において、営業投資有価証券について11,469千円(その他有価証券の非上場株式11,469千円)減損処理を行っております。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式については、発行会社の財政状態の悪化等により、実質価額が取得原価に比べて著しく下落した場合には、回復可能性等を考慮して減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出年金制度

当社及び連結子会社の確定拠出年金制度への要拠出額は、前連結会計年度2,020千円、当連結会計年度1,412千円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	-	-

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
新株予約権戻入益	12,831	815



4. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第10回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権
付与対象者の区分 及び人数	当社取締役3名 当社従業員19名	当社取締役3名 当社監査役3名 当社従業員26名	当社取締役3名 当社従業員18名	当社取締役1名	当社取締役2名 当社監査役1名 当社従業員14名 子会社取締役2名 子会社従業員7名
株式の種類別のス トック・オプションの 数 (注)1、2	普通株式 225,000株	普通株式 192,500株	普通株式 680,000株	普通株式 878,000株	普通株式 486,900株
付与日	2011年12月30日	2012年12月25日	2014年10月6日	2016年2月4日	2016年3月31日
権利確定条件	(注)3	同左	(注)4	(注)5	(注)6
対象勤務期間	期間の定めなし	同左	同左	同左	同左
権利行使期間	2013年12月31日 ～ 2021年12月30日	2014年12月26日 ～ 2022年12月18日	2016年1月1日 ～ 2021年10月5日	2016年2月4日 ～ 2026年2月3日	2018年1月1日 ～ 2023年3月30日

	第13回 新株予約権
付与対象者の区分 及び人数	当社取締役1名 当社執行役員4名 当社従業員23名 子会社取締役1名 子会社執行役員1名 子会社従業員7名
株式の種類別のス トック・オプションの 数 (注)1、2	普通株式 393,900株
付与日	2017年8月21日
権利確定条件	(注)7
対象勤務期間	期間の定めなし
権利行使期間	2019年1月1日 ～ 2024年8月20日

(注)1. 株式数に換算して記載しております。

2. 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

3. 権利確定条件は次のとおりであります。

新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役、監査役、執行役員及び従業員又はこれらに準じる地位にあることを要する。

その他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

4. 新株予約権は、下記(a)及び(b)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

(a) 2015年9月期乃至2017年9月期のうち、いずれかの期において経常利益が8億円以上である場合  
行使可能割合75%

(b) 2015年9月期乃至2019年9月期のうち、いずれかの期において経常利益が15億円以上である場合  
行使可能割合100%

上記における経常利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役に定めるものとする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の取締役、執行役員、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

5. 割当日から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間に東京証券取引所における当社普通株式の普通取引終値が一度でも本新株予約権の発行に係る取締役会決議日の直前営業日である2016年1月19日の東京証券取引所における当社普通株式の終値である金634円に50%を乗じた価格を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使期間の満期日までに行使しなくてはならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。

- (a) 当社の開示情報に重大な疑義が含まれることが判明した場合
- (b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合
- (c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合
- (d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

6. 新株予約権は、下記(a)及び(b)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合（以下、「行使可能割合」という。）の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

- (a) 2017年9月期乃至2019年9月期のうち、いずれかの期において当期純利益が475百万円以上である場合  
行使可能割合70%
- (b) 2017年9月期乃至2021年9月期のうち、いずれかの期において当期純利益が700百万円以上である場合  
行使可能割合100%

上記における当期純利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき当期純利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役に定めるものとする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の役員、執行役員、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

7. 新株予約権は、下記(a)、(b)または(c)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合（以下、「行使可能割合」という。）の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。

- (a) 2018年9月期乃至2020年9月期のうち、いずれかの期において当期純利益が700百万円以上である場合  
行使可能割合10%
- (b) 2018年9月期乃至2023年9月期のうち、いずれかの期において当期純利益が1,000百万円以上である場合  
行使可能割合80%
- (c) 2018年9月期乃至2023年9月期のうち、いずれかの期において当期純利益が1,500百万円以上である場合  
行使可能割合100%

上記における当期純利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書（連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書）における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき当期純利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役に定めるものとする。

新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の役員、執行役員、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（2019年9月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第10回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	10,000	7,500	22,000	878,000	375,000
権利確定	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	554,400	-
失効	-	-	22,000	-	-
未行使残	10,000	7,500	-	323,600	375,000

	第13回 新株予約権
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	376,000
付与	-
失効	41,700
権利確定	-
未確定残	334,300
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	-
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	-

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第8回新株予約権	第9回新株予約権	第10回新株予約権	第11回新株予約権	第12回新株予約権
権利行使価格 (円)	312	312	1,507	654	662
行使時平均株価 (円)	-	-	-	1,053	-
付与日における公正な評価単価 (円)	8,420	4,926	2,000	100	1,000

	第13回新株予約権
権利行使価格 (円)	920
行使時平均株価 (円)	-
付与日における公正な評価単価 (円)	900

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の価格に換算して記載しております。

5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
<b>繰延税金資産</b>		
投資有価証券評価損	12,237千円	4,620千円
減損損失	58,082 "	27,034 "
子会社株式評価損	- "	142,662 "
減価償却超過額	79,796 "	84,942 "
資産調整勘定	143,628 "	61,552 "
税務上の繰越欠損金(注)2	311,003 "	376,772 "
貸倒引当金	11,260 "	47,851 "
貸倒損失	50,215 "	21,494 "
その他	17,527 "	30,531 "
繰延税金資産小計	683,751 "	797,462 "
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2	186,878 "	279,116 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	115,783 "	240,621 "
評価性引当額小計(注)1	302,661 "	519,737 "
繰延税金資産合計	381,089 "	277,724 "
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	7,438 "	- "
繰延税金負債合計	7,438 "	- "
繰延税金資産の純額	373,650千円	277,724千円

(注)1. 評価性引当額が217,075千円増加しております。この増加の内容は、主に子会社株式評価損の計上及び税務上の繰越欠損金の計上に伴う評価性引当額の増加によるものであります。

(注)2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額  
前連結会計年度(2018年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	4,468	6,275	38,820	41,559	41,937	186,878	311,003
評価性引当金	-	-	-	-	-	186,878	186,878
繰延税金資産	4,468	6,275	38,820	41,559	41,937	-	(2)124,124

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 税務上の繰越欠損金311,003千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産124,124千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2019年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(3)	20,654	26,170	28,456	31,818	31,864	279,116	376,772
評価性引当金	-	-	-	-	-	279,116	279,116
繰延税金資産	20,654	26,170	28,456	31,818	31,864	-	(4)97,655

(3) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(4) 税務上の繰越欠損金376,772千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産97,655千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.0 "	0.6 "
住民税均等割	2.7 "	1.0 "
のれん償却額	16.7 "	7.3 "
繰越欠損金の利用	4.9 "	- "
所得拡大促進税制による税額控除	- "	5.1 "
連結修正	3.4 "	31.6 "
評価性引当額の増減	26.2 "	42.9 "
連結子会社の適用税率差異	0.4 "	0.0 "
その他	0.3 "	0.1 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.5 %	45.8 %

(資産除去債務関係)

当社は、本社事務所の不動産賃貸契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループの事業は、メディア事業、マーケットプレイス事業、ソリューション事業及びインキュベーション事業から構成されております。

各セグメントに属するサービスの内容は、以下のとおりであります。

メディア事業

国内最大級のオークション・ショッピング比較・検索サイト『aucfan.com』の運営（広告・月額利用料）及び教育・個別サポートサービス「オークファンスクール」の運営等

マーケットプレイス事業

国内最大級のBtoBマーケットプレイス「NETSEA（ネッシー）」や企業の余剰在庫等の流動化ソリューションを行う「リバリュー」等を始めとした法人向けの在庫処分・販路拡大支援（流通手数料、商品売買）、BtoCマーケットプレイス「ネットプライス」及び社会貢献型サンプリングサービス「Otameshi」の運営等

ソリューション事業

受発注・在庫一元管理システム「タテンボガイド」の提供（月額利用料）を始めとした法人企業への業務効率化・業績拡大のためのサービス提供等

インキュベーション事業

上記事業と関連性の高い事業への投資実行（キャピタルゲイン）及び同事業へのコンサルティングサービスの提供等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益又は損失は、営業利益ベースであり合計額は連結損益計算書の金額と一致しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1、3	連結損益及び 包括利益計算 書計上額 (注)2
	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,852,155	3,315,462	421,387	274,714	5,863,720	-	5,863,720
セグメント間の内部 売上高又は振替高	72,099	2,767	8,495	-	83,362	83,362	-
計	1,924,254	3,318,230	429,883	274,714	5,947,082	83,362	5,863,720
セグメント利益又は 損失( )	187,594	102,042	54,016	161,902	397,522	13,447	410,970
セグメント資産	4,337,259	1,755,167	365,777	900,708	7,358,912	1,485,074	5,873,838
その他の項目							
減価償却費	169,050	84,524	33,060	-	286,635	3,496	283,139
のれん償却額	15,958	126,339	22,962	-	165,260	7,034	158,226
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	119,631	95,388	97,214	-	312,235	-	312,235

- (注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去13,447千円であります。  
2. セグメント利益又は損失( )は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。  
3. セグメント資産の調整額 1,485,074千円、その他の項目の減価償却費の調整額 3,496千円、  
のれん償却額の調整額 7,034千円は、セグメント間取引消去等であります。



当連結会計年度(自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1、3	連結損益及び 包括利益計算 書計上額 (注)2
	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,102,779	3,421,243	255,619	856,827	6,636,469	-	6,636,469
セグメント間の内部 売上高又は振替高	248,484	28,062	10,784	-	287,331	287,331	-
計	2,351,263	3,449,305	266,404	856,827	6,923,801	287,331	6,636,469
セグメント利益又は 損失( )	181,276	65,213	14,751	540,964	671,778	7,978	679,756
セグメント資産	3,404,461	1,746,699	174,294	1,369,863	6,695,318	1,179,810	5,515,508
その他の項目							
減価償却費	144,918	94,812	26,566	-	266,297	3,264	263,032
のれん償却額	8,672	127,405	16,913	-	152,991	7,034	145,957
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	163,163	92,097	62,094	-	317,355	-	317,355

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去7,978千円であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

3. セグメント資産の調整額 1,179,810千円、その他の項目の減価償却費の調整額 3,264千円、  
のれん償却額の調整額 7,034千円は、セグメント間取引消去等であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリュー ション	インキュ ベーション	合計
外部顧客への売上高	1,852,155	3,315,462	421,387	274,714	5,863,720

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
GMOペイメントゲートウェイ株式会社（注）2	725,217	メディア及び マーケットプレイス

（注）1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 回収代行契約を締結しており、上記金額は一般顧客に対する回収代行依頼金額を記載しております。

当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリュー ション	インキュベ ーション	合計
外部顧客への売上高	2,102,779	3,421,243	255,619	856,827	6,636,469

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
GMOペイメントゲートウェイ株式会社（注）2	799,376	メディア及び マーケットプレイス

（注）1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 回収代行契約を締結しており、上記金額は一般顧客に対する回収代行依頼金額を記載しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】  
前連結会計年度（自2017年10月1日 至2018年9月30日）

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計	調整額	合計
減損損失	3,439	-	105,052	-	108,492	-	108,492

当連結会計年度（自2018年10月1日 至2019年9月30日）

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計	調整額	合計
減損損失	746	68,462	34,980	-	104,189	-	104,189

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】  
前連結会計年度（自2017年10月1日 至2018年9月30日）

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計	調整額	合計
当期償却額	15,958	126,339	22,962	-	165,260	7,034	158,226
当期末残高	9,419	550,832	62,377	-	622,629	21,102	601,526

当連結会計年度（自2018年10月1日 至2019年9月30日）

（単位：千円）

	メディア	マーケット プレイス	ソリューシ ョン	インキュベ ーション	計	調整額	合計
当期償却額	8,672	127,405	16,913	-	152,991	7,034	145,957
当期末残高	0	391,289	-	-	391,289	-	391,289

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自2017年10月1日 至2018年9月30日）及び当連結会計年度（自2018年10月1日 至2019年9月30日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	武永修一	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 35.32 間接 9.64	当社代表取締役	新株予約権の放棄 (注)2	10,400	新株予約権	4,345

(注)1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 新株予約権の放棄取引は、2014年9月12日に発行決議がなされた第10回新株予約権の権利放棄によるものであります。

当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	武永修一	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 39.38 間接 9.26	当社代表取締役	新株予約権の行使 (注)2	362,577	新株予約権	3,791

(注)1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 新株予約権の行使取引は、2016年1月20日に発行決議がなされた第11回新株予約権の権利行使によるものであります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
連結子会社役員	石丸啓明	-	-	㈱スマートソーシング取締役	-	資金の貸付	貸付金の返済 貸付金利息 (注)2	60,000 857	-	-
連結子会社役員	原神敬幸	-	-	㈱ゼロディブ取締役	-	-	連結子会社の借入に対する債務保証(注)3	80,640	-	-

(注)1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 資金の貸付については、市場金利等を勘案して合理的に条件を決定しております。

3. 当該連結子会社は、銀行借入に対して上記の代表取締役より債務保証を受けております。取引金額は、2018年9月30日現在の借入金残高を記載しております。

当連結会計年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり純資産額	274.22円	312.95円
1株当たり当期純利益	22.72円	32.54円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	22.14円	31.22円

(注) 1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当連結会計年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	223,913	327,178
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	223,913	327,178
普通株式の期中平均株式数(株)	9,856,121	10,054,374
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	258,551	425,124
(うち新株予約権(株))	(258,551)	(425,124)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	2014年9月12日取締役会決議による第10回新株予約権普通株式 22,000株	-

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当連結会計年度 (2019年9月30日)
純資産の部の合計額(千円)	2,717,158	3,222,038
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	12,880	13,541
(うち新株予約権(千円))	(8,500)	(7,130)
(うち非支配株主持分(千円))	(4,380)	(6,410)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,704,278	3,208,497
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	9,861,800	10,252,549

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
株式会社オークファン	第1回無担保社債	2015年7月31日	250,000 (125,000)	125,000 (125,000)	0.26	無担保社債	2020年6月30日

(注) 1. ( ) 内の数値は、1年以内償還予定の金額(内数)であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
125,000	-	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	300,000	300,000	0.36	-
1年以内に返済予定の長期借入金	499,677	398,986	0.48	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,063,099	572,183	0.42	2021年~2023年
合計	1,862,776	1,271,169	-	-

(注) 1. 平均金利については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	237,112	219,980	115,091	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,654,283	3,361,199	4,662,387	6,636,469
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	270,024	682,620	646,831	610,571
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益(千円)	175,328	479,483	426,431	327,178
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	17.92	48.66	42.70	32.54

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり 四半期純損失( ) (円)	17.92	30.65	5.17	9.68

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当事業年度 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,421,642	991,483
売掛金	250,500	1,216,865
営業投資有価証券	897,224	1,243,962
仕掛品	-	35,026
貯蔵品	515	625
前払費用	88,163	72,051
立替金	1,95,272	1,210,815
未収入金	4,036	80,086
短期貸付金	-	9,965
その他	1,3,854	1,21,490
貸倒引当金	34,666	125,861
流動資産合計	2,726,543	2,756,512
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	64,086	56,861
工具、器具及び備品	38,099	28,761
リース資産	-	2,751
有形固定資産合計	102,186	88,373
<b>無形固定資産</b>		
のれん	9,419	0
商標権	1,103	933
ソフトウェア	210,214	219,189
ソフトウェア仮勘定	10,484	13,147
無形固定資産合計	231,222	233,270
<b>投資その他の資産</b>		
関係会社株式	1,941,437	1,434,553
長期貸付金	-	54,361
繰延税金資産	82,482	76,725
敷金	150,579	145,524
その他	1,342	1,657
投資その他の資産合計	2,175,841	1,712,822
固定資産合計	2,509,250	2,034,466
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	2,173	931
繰延資産合計	2,173	931
資産合計	5,237,967	4,791,910

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当事業年度 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	76,335	1 46,596
短期借入金	2 300,000	2 300,000
1年内償還予定の社債	125,000	125,000
1年内返済予定の長期借入金	459,207	378,826
リース債務	-	934
未払金	106,492	155,910
未払費用	36,476	20,094
未払法人税等	64,706	104,782
未払消費税等	49,617	7,433
前受金	77,235	128,176
預り金	8,469	5,844
ポイント引当金	2,963	1,465
その他	333	412
流動負債合計	1,306,837	1,275,477
<b>固定負債</b>		
社債	125,000	-
長期借入金	936,647	557,821
リース債務	-	3,616
その他	1 1,762	1 1,762
固定負債合計	1,063,409	563,199
<b>負債合計</b>	<b>2,370,246</b>	<b>1,838,676</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	679,591	861,157
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	679,461	861,027
その他資本剰余金	3,893	3,893
資本剰余金合計	683,354	864,920
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
繰越利益剰余金	1,522,670	1,432,581
利益剰余金合計	1,522,670	1,432,581
自己株式	43,251	203,171
株主資本合計	2,842,365	2,955,488
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	16,855	9,385
評価・換算差額等合計	16,855	9,385
新株予約権	8,500	7,130
<b>純資産合計</b>	<b>2,867,721</b>	<b>2,953,233</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,237,967</b>	<b>4,791,910</b>



## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,219,969	1,320,091
売上原価	1,995,891	1,143,605
売上総利益	1,203,078	1,776,485
販売費及び一般管理費	1,285,581	1,211,225
営業利益	349,496	625,259
営業外収益		
受取利息	1,232	1,393
為替差益	682	869
保険解約返戻金	5,780	-
社会保険料還付金	-	1,407
その他	110,180	14,322
営業外収益合計	18,876	10,592
営業外費用		
支払利息	6,659	7,006
社債発行費償却	1,241	1,241
リース解約損	-	1,575
その他	1,799	1,203
営業外費用合計	9,701	11,027
経常利益	358,671	624,825
特別利益		
新株予約権戻入益	12,831	815
事業譲渡益	1,930	-
その他	166	-
特別利益合計	14,928	815
特別損失		
減損損失	3,439	746
固定資産除却損	60	20,590
子会社株式売却損	-	42,505
子会社株式評価損	-	465,911
特別損失合計	3,500	529,754
税引前当期純利益	370,099	95,886
法人税、住民税及び事業税	116,748	172,779
法人税等調整額	22,146	13,195
法人税等合計	94,602	185,975
当期純利益又は当期純損失( )	275,496	90,089

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)		当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	105,651	10.4	249,823	18.3
経費		906,004	89.6	1,113,566	81.7
合計		1,011,656	100.0	1,363,389	100.0
商品売上原価		241		41,299	
営業投資売上原価	2	79,915		148,637	
他勘定振替高		95,922		121,721	
売上原価		995,891		1,431,605	

1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
広告宣伝費(千円)	388,027	436,663
業務委託費(千円)	262,710	317,530
減価償却費(千円)	152,644	131,622
保守料(千円)	28,503	94,906
外注費(千円)	28,328	93,774
地代家賃(千円)	32,706	55,844

2. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
ソフトウェア仮勘定(千円)	95,922	121,721
合計(千円)	95,922	121,721

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	678,414	678,284	3,893	682,177	1,247,173	1,247,173	43,251	2,564,514
当期変動額								
新株の発行	1,177	1,177		1,177				2,354
当期純利益					275,496	275,496		275,496
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	1,177	1,177	-	1,177	275,496	275,496	-	277,851
当期末残高	679,591	679,461	3,893	683,354	1,522,670	1,522,670	43,251	2,842,365

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	10,466	10,466	21,346	2,596,326
当期変動額				
新株の発行				2,354
当期純利益				275,496
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,388	6,388	12,845	6,457
当期変動額合計	6,388	6,388	12,845	271,394
当期末残高	16,855	16,855	8,500	2,867,721

当事業年度（自 2018年10月1日 至 2019年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	679,591	679,461	3,893	683,354	1,522,670	1,522,670	43,251	2,842,365	
当期変動額									
新株の発行	181,566	181,566		181,566				363,132	
当期純損失（ ）					90,089	90,089		90,089	
自己株式の取得							159,920	159,920	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	181,566	181,566	-	181,566	90,089	90,089	159,920	113,122	
当期末残高	861,157	861,027	3,893	864,920	1,432,581	1,432,581	203,171	2,955,488	

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	16,855	16,855	8,500	2,867,721
当期変動額				
新株の発行				363,132
当期純損失（ ）				90,089
自己株式の取得				159,920
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26,240	26,240	1,369	27,610
当期変動額合計	26,240	26,240	1,369	85,512
当期末残高	9,385	9,385	7,130	2,953,233

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

- ・子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。
- ・其他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

- ・貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10年
工具、器具及び備品	2年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア	社内における利用可能期間(5年以内)
商標権	10年
その他の無形固定資産	8年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零とする定額法を採用しております。

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間(5年)にわたり均等償却しております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り(5年)、当該期間にわたり均等償却しております。

(6) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「流動資産」の「その他」に含めて表示しておりました「立替金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替を行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に表示していた99,126千円は、「立替金」95,272千円、「その他」3,854千円として組み替えております。

(損益計算書及び包括利益計算書関係)

「広告宣伝費」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額の注記として表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度におきましても販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額の注記として表示しております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」に表示していた43,235千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」82,482千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (2018年9月30日)	当事業年度 (2019年9月30日)
短期金銭債権	96,195千円	212,348千円
短期金銭債務	- "	6,056 "
長期金銭債務	1,762 "	1,762 "

2. 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。

当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年9月30日)	当事業年度 (2019年9月30日)
当座貸越極度額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	300,000 "	300,000 "
差引額	400,000 "	400,000 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
営業取引による取引高		
売上高	72,099千円	249,784千円
売上原価	540 "	19,730 "
販売費及び一般管理費	2,967 "	20,871 "
営業取引以外の取引高	8,749 "	7,402 "

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度52%、当事業年度53%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度48%、当事業年度47%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	当事業年度 (自 2018年10月1日 至 2019年9月30日)
給与手当	253,086千円	274,060千円
業務委託費	82,578 "	137,627 "
広告宣伝費	44,089 "	119,687 "
減価償却費	16,406 "	13,296 "
のれん償却費	15,958 "	8,672 "
貸倒引当金繰入額	5,551 "	91,194 "
ポイント引当金繰入額	1,656 "	1,497 "

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2018年9月30日)	当事業年度 (2019年9月30日)
子会社株式	1,941,437	1,434,553

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 ( 2018年 9月30日 )	当事業年度 ( 2019年 9月30日 )
繰延税金資産		
未払事業税	4,907千円	9,963千円
投資有価証券評価損	12,237 "	4,620 "
子会社株式評価損	- "	142,662 "
減価償却超過額	37,255 "	43,022 "
のれん償却超過額	21,739 "	12,077 "
貸倒引当金	10,615 "	39,031 "
その他	3,185 "	4,743 "
繰延税金資産小計	89,940千円	256,120千円
評価性引当額	19 "	179,395 "
繰延税金資産合計	89,921千円	76,725千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	7,438千円	- 千円
繰延税金負債合計	7,438 "	- "
繰延税金資産の純額	82,482千円	76,725千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 ( 2018年 9月30日 )	当事業年度 ( 2019年 9月30日 )
法定実効税率	30.6%	30.6%
( 調整 )		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.9 "	3.7 "
住民税均等割	1.0 "	2.7 "
のれん償却	0.7 "	2.7 "
合併による影響額	9.6 "	- "
評価性引当額の増減	0.0 "	187.1 "
所得拡大促進税制による税額控除	- "	32.4 "
その他	0.0 "	0.4 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.6%	194.0%

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。



【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	期首帳簿価額 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	減価償却累計額 (千円)	期末取得原価 (千円)
有形固定資産							
建物	64,086	-	-	7,225	56,861	15,394	72,255
工具、器具及び備品	38,099	5,183	0	14,522	28,761	117,023	145,784
リース資産	-	3,057	-	305	2,751	305	3,057
有形固定資産計	102,186	8,240	0	22,053	88,373	132,723	221,097
無形固定資産							
のれん	9,419	-	746 (746)	8,672	0	-	-
商標権	1,103	-	-	170	933	-	-
ソフトウェア	210,214	150,741	19,072	122,694	219,189	-	-
ソフトウェア仮勘定	10,484	147,168	144,504	-	13,147	-	-
無形固定資産計	231,222	297,909	164,323 (746)	131,538	233,270	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替高 142,985千円
ソフトウェア仮勘定	当社サービス機能追加に伴う開発費用 147,168千円

2. 当期減少額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	除却 19,072千円
ソフトウェア仮勘定	ソフトウェア勘定への振替高 142,985千円

3. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(流動資産)	34,666	125,861	34,666	125,861
ポイント引当金	2,963	1,465	2,963	1,465

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン 証券代行部 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン - 株式の売買の委託にかかる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://aucfan.co.jp/">https://aucfan.co.jp/</a>
株主に対する特典	株主優待制度 1．対象株主様 毎年9月末日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式300株（3単元）以上保有株主様を対象といたします。 2．株主優待内容 （1）所有株式数300株以上500株未満 1,000円相当の株主優待割引券 （2）所有株式数500株以上 2,000円相当の株主優待割引券 3．株主優待割引券の利用条件 当社会社である株式会社SynaBizが運営する社会貢献サンプリングサービス「Otameshi」でのお買い物において、割引券としてご利用いただけます。

（注） 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第12期)(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)2018年12月21日関東財務局長に提出。

(2)内部統制報告書及びその添付書類

2018年12月21日関東財務局長に提出

(3)四半期報告書及び確認書

(第13期第1四半期)(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)2019年2月14日関東財務局長に提出。

(第13期第2四半期)(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)2019年5月15日関東財務局長に提出。

(第13期第3四半期)(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)2019年8月14日関東財務局長に提出。

(4)臨時報告書

2018年12月21日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

2019年2月7日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)に基づく臨時報告書であります。

2019年2月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)に基づく臨時報告書であります。

(5)自己株券買付状況報告書

報告期間(自 2019年3月1日 至 2019年3月31日)2019年4月3日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年12月20日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代 表 社 員 公認会計士 木村 直人 印  
業 務 執 行 社 員

業 務 執 行 社 員 公認会計士 藤田 憲三 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2018年10月1日から2019年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め、全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファン及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社オークファンの2019年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社オークファンが2019年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は  
当社（有価証券報告書提出会社）が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年12月20日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代 表 社 員 公認会計士 木村 直人 印  
業 務 執 行 社 員

業 務 執 行 社 員 公認会計士 藤田 憲三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2018年10月1日から2019年9月30日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め、全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファンの2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は  
当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。